福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	自然科学
２．科目分類	基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	岩田 教一
７．授業形式	教科書に沿って進める。プロジェクターを併用する。
８．授業の目標	専門分野に入る前の基礎となる「生物学」について、良く理解できるように学習する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・ホームワーク・小テスト等を総合的に評価する。
１０．受講上の注意	ホームワーク中心に復習する事。
１１．教科書	生物学　全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版社
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	まるわかり！　基礎生物　南山堂　小林秀明

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	生物学オリエンテーション	生物学で学ぶべき内容の説明、授業の進め方(教科書内容確認)
2	Ⅰ編　生命	1章　生命とは何か　2章　生命の誕生　3章　生命の変遷
3	Ⅱ編１章　組織と細胞-1	①細胞をつくる物質　②生命の単位、細胞
4	Ⅱ編１章　組織と細胞-2	③細胞内には細胞小器官がある　④細胞の様々な活動
5	Ⅱ編2章細胞一生と成り立ち１	①細胞の一生　②単細胞生物と多細胞生物
6	Ⅱ編2章細胞一生と成り立ち２	③ヒトの組織は大きく分けて4種類ある　④ヒトの器官
7	Ⅲ編　生命の連続　1章-1	①生殖の方法　特に有性生殖について　小テスト１
8	Ⅲ編　生命の連続　1章-2	②減数分裂(体細胞分裂と減数分裂について)
9	Ⅲ編　生命の連続　2章-1	①遺伝とその法則　②生命をつくるしくみ
10	Ⅲ編　生命の連続　2章-2	③遺伝子を働かせる仕組み　特にゲノム、セントラルドグマについて
11	Ⅲ編　生命の連続　3章	発生して体をつくる　①発生の過程　②発生の仕組み　小テスト２
12	Ⅳ編　環境と動物の反応１	1章　刺激の受容と反応　特に神経系による刺激の伝達（ニューロン、シナプス）について
13	Ⅳ編　環境と動物の反応２	2章-1 内部環境を保つ仕組み　①ホメオスタシス　②ホルモン
14	Ⅳ編　環境と動物の反応３	2章-2 内部環境を保つ仕組み　③自律神経とホルモンの協調作用　④生体防御
15	Ⅳ編　環境と動物の反応４	3章　動物の行動と進化　①動物の行動　②ヒトの進化と由来　生物学まとめ
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	生命科学　　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等16年勤務）
２．科目分類	基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第３学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	①宗形　芳英　　②松本美香
７．授業形式	講義
８．授業の目標	①生命現象を生化学的に理解する。 ②歯科衛生士が生化学、栄養学を学ぶ意義を理解し、口腔の健康を維持・増進していくための知識を得る
９．成績評価	期末試験の結果で評価する。
１０．受講上の注意	①教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分理解することに努める。 ②不定期に確認試験を実施する
１１．教科書	①『生化学・口腔生化学』　歯科衛生学シリーズ　医歯薬出版 ②　歯科衛生学シリーズ　人体の構造と機能3　栄養学
１２．副読本	歯科衛生学シリーズ　保健生態学・歯科保健指導論
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編 1章 人体の構成要素	細胞の役割　人体における水　人体構成成分の構造と種類
2	1章 人体の構成要素 2章 人体における化学反応	人体構成成分の構造と種類 消化と吸収　酸素の運搬と二酸化炭素の排出　代謝
3	3章 糖質、脂質、タンパク質の代謝 4章 糖質、脂質、タンパク質代謝の相互関連	消化、吸収、代謝の全体像　糖質と脂質の代謝　タンパク質とアミノ酸の代謝 糖質、脂質、タンパク質の代謝の相互関連
4	5章遺伝子とタンパク質合成 6章人体における恒常性の維持	DNAと遺伝子　遺伝子の発現とタンパク質の合成 恒常性（ホメオスタシス）とは　ホルモン系と自律神経系
5	Ⅱ編 1章 歯と歯周組織の生化学	歯と歯周組織　歯周組織の主要成分としての結合組織　歯
6	2章 硬組織の生化学 3章 唾液の生化学	血清カルシウムの恒常性とその調節機構　骨形成と石灰化のメカニズム　骨吸収と骨リモデリング　歯の脱灰と再石灰化 唾液の組成と機能　唾液に含まれる無機質の組成と機能　唾液に含まれる有機質の組成と機能
7	4章 プラークの生化学	プラーク　プラークによるう蝕発生機構　プラークによる歯周病発生機構　プラークや舌苔による口臭発生機構　プラークと歯石
8	1章　栄養学と歯科衛生士	①栄養の概念　②栄養と食生活の意義　③歯科衛生士が栄養を学ぶ意義
9	2章　栄養素の種類とはたらき	①糖質　1-糖質の種類（単糖類・二糖類・多糖類・その他）
10		2-糖質のはたらき（エネルギー源としての役割・血糖値の調節） 3-糖質とその他の栄養素との関係
11		②脂質　1-脂質の種類（単純脂質・複合脂質・誘導脂質） 2-脂質のはたらき（エネルギー源としての役割・機能的な役割）
12		③タンパク質　1-タンパク質の種類（アミノ酸・ペプチドとタンパク質） 2-タンパク質のはたらき（体タンパク質としての役割）
13		④ビタミン　⑤ミネラル　⑥食物繊維　⑦水

14	3章　栄養素の消化・吸収	①消化・吸収と栄養　②消化の種類　③消化の過程　④吸収のメカニズム他
15	4章　健康と栄養	①食生活を取り巻く施策　②日本人の食事摂取基準
16		前期復習・前期確認試験
17	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	社会科学
２．科目分類	基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第3学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	高津　寿夫
７．授業形式	講義は基本的には教科書に従い、ipadとその他の映像機器や白板を使って行う。また内容的に不足と思われる事柄については参考プリントを配布して説明する。
８．授業の目標	近年、歯科衛生士の業務には、人口構造・疾病構造の変化や社会的ニーズの多様化などにより全人的、包括的な対応が求められている。しかしながら実際には多くの場合、う蝕や歯周病といった「疾病」という医学的要素で対象者（患者）を捉えている傾向が強いようである。そのため疾患の背景にある心理的、社会的要素など種々の因子が見落とされ、結果的に対象者のニーズに必ずしも応えることに至らなかったということもあったようである。このような点を踏まえ、対象者一人ひとりのもつ個別のニーズに応じ、科学的で根拠ある方法で包括的に歯科衛生を提供しようとする気運が我が国においても高まっている。このような思考は元々、米国で生まれたもので「歯科衛生ケアプロセス」と言われる“考えるためのツール”であり、歯科衛生臨床の基本をなすものとされている。そこで本科目では上記「歯科衛生ケアプロセス」を媒体として採用し、先ずはその理解に務めさせ、その上で同ケアプロセスのフェーズごとに見られる歯科衛生士と対象者の間柄という“ミクロ社会”に生じる様々な事象、即ち、相互行為ないしコミュニケーション行為、自我形成ないしパーソナリティ形成、共感・相互主観・共通社会意識の形成等々に着目し、これらの事象の特性と意味等を、様々な理論、概念、およびモデル等といった分析手段を参照しつつ社会科学的視点から考察させ、“学び”を実践の場に活用できるよう助成することを目標とする。
９．成績評価	期末試験の結果で評価する。
１０．受講上の注意	板書された説明、追加事項は講義ノートや配布プリントあるいは教科書余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用できるようにする。
１１．教科書	歯科衛生ケアプロセス（第１版）、編著：佐藤陽子、齋藤　淳、医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	歯科衛生ケアプロセス実践ガイド、編著：佐藤陽子、齋藤　淳、医歯薬出版 歯科衛生過程、編集：全国歯科衛生士教育協議会、医歯薬出版

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	第1章　概要	第1章、歯科衛生ケアプロセスの概要。１．歯科衛生ケアプロセスとは、２．問題解決と意思決定、３．歯科衛生ケアプロセスの背景、４．歯科衛生ケアプロセスに基づいたケアとは
2	第2章　構成要素 １．アセスメント	第2章、歯科衛生ケアプロセスの構成要素。１．アセスメント、１）実践前準備、２）構成と流れ、３）情報処理、４）クリティカル思考
3	第2章　構成要素 ２．歯科衛生診断	２．歯科衛生診断、１）科学的判断、２）歯科診断との違い、３）目的、４）診断文の書き方

4	第2章　構成要素 ２．歯科衛生診断 ３．計画立案Ⅰ	２－５）クリティカル思考の必要性、６）歯科衛生診断のもたらすもの、 ３．計画立案－Ⅰ．計画立案の考え方、１）目的、２）計画立案とコミュニケーション（１）
5	第2章　構成要素 ３．計画立案Ⅰ	３－Ⅰ－２）計画立案とコミュニケーション（２）、３）疫学が実際臨床にもたらすもの、４）予防概念の理解と計画立案、５）リスク因子への対応
6	第2章　構成要素 ３．計画立案Ⅰ	３－Ⅰ－６）保健行動理論の理解、７）保健行動への導き方、８）ヒューマンニーズ概念モデルと歯科衛生ケアプロセス
7	第2章　構成要素 ３．計画立案Ⅰ	３－Ⅰ－９）歯科衛生ヒューマンニーズ概念モデルの応用、10）QOLに焦点を当てた計画立案を目指す、11）口腔関連QOLモデル、12）口腔関連QOLの歯科衛生モデル（OHRQL）の応用、13）セルフケア能力の向上、14）対象者の文化的背景への配慮、15）ヘルスケアチームにおける歯科衛生士の役割
8	第2章　構成要素 ３．計画立案－Ⅱ	３．計画立案－Ⅱ．歯科衛生ケアプラン、１）ケアプランの構成、２）期待される結果の記述、３）臨床の基本としての歯科衛生ケアプラン
9	第2章　構成要素 ４．実施	４．実施、１）前準備、２）学習理論の応用、３）コンプライアンス行動とセルフケア行動、４）実施の流れ、５）ケアの共有と評価につながる記録
10	第2章　構成要素 ４．実施 ５．評価	４－６）科学性のある記録SOAP、７）歯科衛生ケアの記録に求められるもの ５．評価、１）評価における標準と基準、２）歯科衛生ケアプロセスにおける評価、３）評価の方法、４）「目標」「期待される結果」の達成度
11	第2章　構成要素 ５．評価 第3章　研究と教育における歯科衛生ケアプロセス　１．研究、２．教育、３．まとめ	５－５）評価における重要点、６）質の保証の意味 第3章、研究と教育における歯科衛生ケアプロセス。１．歯科衛生ケアプロセスと研究、１）研究活動の必要性、２）研究プロセスとしての歯科衛生ケアプロセス、２．教育における重要性、１）アメリカ、カナダにおける教育、２）日本の歯科衛生士教育における必要性、、３．まとめ
12	Appendices ①保健行動の理論（１）	①保健行動の理論。１．保健信念モデル、１）本モデルにおける自己効力観、２）歯科衛生への応用、２．ローカス・オブ・コントロール、３．多属性効用理論、１）歯科衛生への応用、２）意思の決定要因
13	Appendices ①保健行動の理論（２） 事例展開（１）	①－４．プリシード／プロシードモデル、１）保健行動との関係、２）歯科衛生への応用、５．自己管理スキル 歯科衛生ケアプロセス事例展開
14	事例展開（２）	歯科衛生ケアプロセス事例展開
15	補遺（１）	授業内容の補充
16	補遺（２）	授業内容の復習とまとめ等
17	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	外国語
２．科目分類	基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・前期
５．単位数	2単位
６．担当講師	渡邉　明美
７．授業形式	講義・練習
８．授業の目標	英語独特の音をアウトプットできること。基本的な運用能力を獲得すること。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テストなどを総合的に評価することもある。
１０．受講上の注意	英語の５領域（聞く、読む、話す、書く、発表する）を授業の中で積極的に取り組むよう心がけること。毎時間の課題を真摯にこなすこと。
１１．教科書	「歯科医院での実用英会話」第３版　　医歯薬出版株式会社
１２．副読本	特にナシ
１３．推薦参考図書	TAGAKI Advanced:株式会社mpi / 歯科英語の練習帳　for Dental Hygienists:萌文書林

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Unit 1,2	Handling Calls at Reception / Service at Reception
2	Unit 3,4	Caring for the Patient / Consultaion
3	Unit 5,6	In the X-ray Room / Pulpectomy
4	Unit 7,8	Dental Extraction / Payment and Next Appointment at Reception
5	Unit 9,10	Gum Disease / Periodontal Examination
6	Unit 11,12	Tooth Brushing Instructions / Scaling
7	Unit 13,14	Maintenance / Explanation on Dental Cavities
8	Unit 15,16	Fluoride Application / Dental Treatment for Children
9	Unit 17,18	Dental Composite Restoration / Infected Root Canal Treatment
10	Unit 19,20	Crown Restoration / Bridge
11	Unit 21,22	False Teeth / Dental Implant Treatment
12	Unit 23,24	Orthodontic Treatment / Tooth Whitening
13	Unit 25, 26	Temporomandibular Joint Disorders / Stomatitis
14	Unit 27,28	Bad Breath / Questions on COVID-19
15	Important Expressions	Review / Readiness for the terminal test
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	心理学
２．科目分類	基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　後期
５．単位数	２単位
６．担当講師	下山　裕子
７．授業形式	講義形式。教科書の他、パワーポイントによるスライドを使用。
８．授業の目標	医療現場で必要な心理学の基礎を学び、気持ちや行動・コミュニケーションについて理解する
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	講義形式に加え、グループワークや発表等の機会も積極的に取り入れる予定
１１．教科書	『歯科衛生学シリーズ 心理学』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	授業の中で紹介する

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	15	心理学の歴史と研究法
2	1	知覚
3	2	学習心理学, 記憶
4	3	動機づけ, 欲求
5	4	感情, ストレス・ストレス対処法
6	5	パーソナリティ, 心理検査
7	6	知能, 知能検査
8	7	思考, 問題解決
9	8, 9	身体の発達と心理的な課題
10	10	対人関係
11	11	集団心理・行動
12	12	心の健康と精神疾患, 心理療法
13	13	カウンセリング
14	14	コミュニケーションの方法
15	14	コミュニケーションの方法（2）, 医療現場で役立つ方法
16		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	解剖学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年・前期
５．単位数	2単位
６．担当講師	浜田 義信
７．授業形式	講義（原則として2階実習室で行い、モニターの映像を利用します）
８．授業の目標	解剖学は医学の基礎となる学問で医療を志す者すべての必修科目です。 この授業では、人体の正常な構造とその名称を習得することを目標とします。 さらに、その形態学的事象の意義（なぜそのような形なのか、なぜその位置なのか、何の目的の構造なのかなど）を追求します。 なお、具体的な到達目標は教科書各章の冒頭に記載された項目とします。
９．成績評価	期末試験を基本とし、講義スケジュールに記載された中間試験の結果を加味します。また、授業態度・課題の提出等を総合的に評価することもあります。
１０．受講上の注意	1.授業は教科書を基本に進行しますが、生理学および組織発生学と共用となりますので各教科の範囲を正確に把握してください。 2.補助教材としてプリントを配布しますが、欠席した場合は担任の先生より次回までに受け取ってください。 3.ホームワークは毎回出題しますが、教科書とともに定期試験の出題範囲とします。 4.授業内容の質問は学習の質を高めますので歓迎いたします。 5.Microsoft teams を利用して連絡事項や動画を配信する場合がありますので適時確認をお願いします。 6.授業は皆さんが健康に留意しつつ自由に受講していただきますが、他人の迷惑になるような行為（私語など）は厳禁といたします。 7.教科書のⅡ編2章②体の各部位の骨格筋および6章⑥末梢神経系は演習の時間内に講義をしますので定期試験の範囲には含まれません。
１１．教科書	『人体の構造と機能1　解剖学・組織発生学・生理学』 全国歯科衛生士協議会監修　医歯薬出版
１２．副読本	特にありません。
１３．推薦参考図書	『イラストで学ぶ解剖学』　松村譲兒　医学書院 『ぜんぶわかる人体解剖図』　坂井建雄、橋本尚詩　成美堂出版

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	序章(4/10)	①人体の構造と機能を学ぶにあたって 1.解剖学の種類　2.人体の構成　3.実質性器官と中空性器官の基本構造 4.人体の区分と名称　5.解剖学用語　6.体の方向用語　7.姿勢 ※ シラバス説明
2	Ⅱ- 1章 骨格系(4/17)	①概説 2.骨の形による分類　3.骨の基本構造　4.骨の連結 ②骨の発生
3	Ⅱ- 1章 骨格系(4/24)	④体幹骨　⑤上肢骨　⑥下肢骨
4	Ⅱ- 2章 筋と運動(5/8)	①概説 1.筋の構造（骨格筋、心筋、平滑筋）　※ 骨格筋各論は演習項目
5	Ⅱ-3章 消化・吸収 (5/15)	②消化器の構造 1.口腔　2.咽頭　3.食道　4.胃

6	Ⅱ-3章 消化・吸収 (5/22)	②消化器の構造 5.小腸　6.大腸　7.肝臓　8.胆嚢　9.膵臓　10.腹膜
7	Ⅱ-4章 循環(5/29)	⑤心臓 1.心臓の位置と形態　2.心臓の内部構造　3.心臓壁の構造　4.心臓の血管
8	Ⅱ-4章 循環(6/5)	①脈管系の概要 ②血管の構造 ⑦動脈系 ⑧静脈系 ⑨胎児循環 ⑩リンパ系
9	Ⅱ-5章 感覚(6/12)	④感覚野 ⑤外皮 1.皮膚　2.皮膚の付属器　3.粘膜　4.皮膚の感覚装置　　※ 第1回中間試験
10	Ⅱ-5章 感覚(6/19)	⑥特殊感覚器の構造と機能 1.視覚器　2.平衡聴覚器　3.味覚器　4.嗅覚器
11	Ⅱ-6章 神経系(6/26)	①神経系の概要 ②神経系の基本構造 1.神経系の構成　2.神経組織 ④脳脊髄膜 ⑤脳の血管
12	Ⅱ-6章 神経系(7/3)	③中枢神経系 1.脊髄　2.延髄、橋、中脳　3.小脳　4.間脳　5.大脳 ※末梢神経は演習項目
13	Ⅱ-7章 呼吸(7/10)	②呼吸器系の構成- 1.上気道　2.気管と気管支　3.肺胞　4.肺　　※ 第2回中間試験
14	Ⅱ-9章 内分泌(7/17)	①内分泌器官とホルモン 1.内分泌とは　2.内分泌系の分類　3.内分泌器官の種類 ②内分泌器官の構造と機能 1.下垂体　2.甲状腺　3.上皮小体　4.血中カルシウム濃度の調節　5.膵臓 6.副腎　7.性腺　8.松果体　9.その他のホルモン
15	Ⅱ- 8章 腎機能と排尿 Ⅱ-10章 生殖(7/24)	②泌尿器の構造 1.腎臓　2.尿管　3.膀胱　4.尿道 ①生殖器 1.男性生殖器　2.女性生殖器
16	期末試験	前期　期末試験(8/28～実施予定)

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	組織発生学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	浜田義信
７．授業形式	講義（原則として2階実習室で行い、モニターの映像を利用します）。
８．授業の目標	組織学は、人体の正常常構造を顕微鏡を用いて細胞レベルで理解することを目標とします。 発生学は、受精卵からの経時的変化を形態学的に理解することを目標とします。 なお、具体的な到達目標は教科書各章の冒頭に記載された項目とします。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とし、中間試験の結果を加味いたします。
１０．受講上の注意	口腔解剖学Ⅱに準じますが、使用教科書は全身解剖学と口腔解剖学の2冊を使用しますので講義スケジュールを確認して授業時に携帯してください。 また、授業で使用するスライドは事前に Microsoft Teams（解剖学・口腔解剖学のチーム）にアップロードしますので適時確認をお願いします。
１１．教科書	1.『人体の構造と機能1　解剖学・組織発生学・生理学』 全国歯科衛生士協議会監修　医歯薬出版 2.『歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』 全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版
１２．副読本	特にありません。
１３．推薦参考図書	『入門組織学』　南江堂　牛木辰男

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	1章　細胞と組織 （1の教科書）	組織学総論、上皮組織
2		支持組織、筋組織、神経組織
3	3章　歯および歯周組織の構造と機能 （2の教科書）	エナメル質、象牙質・歯髄複合体
4		セメント質、歯根膜、歯槽骨
5		歯肉
6	2章 発生（1の教科書）	受精と着床、胚葉の形成、胎児の成長と発育　※ 中間試験
7	2章 歯と歯周組織の発生 （2の教科書）	先行歯の発生、代生歯および加生歯の発生
8		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	生理学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	宗形 芳英
７．授業形式	講義　（液晶プロジェクタ２台使用）
８．授業の目標	１．細胞、器官および器官系の基本的機能とその調節機構を理解し、適切な生理学用語で説明する。 ２．器官系を統合する神経系と内分泌の基本的機能とその調節機構を理解し、適切な生理学用語で説明する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	予習を行い、不明な点があればすぐに質問をしてその場で理解するように努めること。当日の授業内容を配布プリントと教科書で復習し、自分の理解を確認すること。
１１．教科書	『解剖学・組織発生学・生理学』　歯科衛生学シリーズ　医歯薬出版
１２．副読本	特になし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	生理学で学ぶこと Ⅰ　１章　細胞と組織	内部環境とホメオスタシス　なぜ生理学・口腔生理学を学ぶのか 細胞の構造と機能　細胞の一生　細胞の基本的生理機能
2	Ⅱ　２章　筋と運動	概説　運動　筋電図
3	Ⅱ　３章　消化・吸収 Ⅱ　８章　腎機能と排尿	消化と吸収の概要　口腔での消化　胃の機能　小腸の機能　大腸の機能 腎臓の働き　尿の生成　尿の一般的性質　膀胱からの排尿の仕組み（排尿反射）
4	Ⅱ　４章　循環	循環系の概要　血管の機能　血液　心臓　循環の生理　リンパ系の概要とその機能
5	Ⅱ　５章　感覚 Ⅱ　６章　神経系	感覚の性質と種類　体性感覚の特徴　感覚情報の伝達　感覚野　特殊感覚器の構造と機能 神経系の概要　神経系の基本構造　中枢神経系　末梢神経系　神経系の主な伝導路
6	Ⅱ　７章　呼吸	呼吸　胸郭の構造と換気の仕組み　肺気量と換気量　肺胞および組織におけるガス交換　血液中のO_2とCO_2の運搬　呼吸の調節
7	Ⅱ　９章　内分泌 Ⅱ　10章　生殖 Ⅱ　11章　体温	内分泌器官とホルモン 内分泌器官の構造と機能　ホルモンの作用機序・分泌調節 性周期 受精と妊娠 分娩と乳汁分泌 更年期 体熱の産生 体熱の放散 体温の調節 体温の変動
8	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	口腔解剖学Ⅰ
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年・前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	浜田 義信
７．授業形式	講義（原則として2階実習室で行い、モニターの映像を利用します）
８．授業の目標	口腔解剖学は歯科医学の基礎となるもので、歯科衛生士業務を行う上においても必修科目です。この授業では,全身解剖学の知識をもとに口腔を中心とした頭頸部の構造とその名称の習得を目標とします。 なお、具体的な到達目標は教科書各章の冒頭に記載された項目とします。
９．成績評価	期末試験を基本とし、講義スケジュールに記載された中間試験の結果を加味します。また、授業態度・課題提出等を総合的に評価する事もあります。
１０．受講上の注意	基本的な注意点は解剖学と同一ですが、以下の点に留意してください。 1.頭蓋骨の学習は立体的な理解が重要ですので頭蓋骨模型を積極的に利用してください（ 2階実習室に常備しています ）。 2.口腔解剖学のホームワークは口腔の構造や名称を習得するために特に重要です（提出するだけでなく繰り返しの復習をしてください）。
１１．教科書	『歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』 全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版
１２．副読本	特にありません。
１３．推薦参考図書	特にありません。

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ-1章 ①口腔とは(4/10)	口腔解剖学概説　1.口腔とその周囲の表面 ※ シラバス説明
2	Ⅰ-1章 ①口腔とは(4/17)	2.口腔前庭（口唇粘膜、頬粘膜、歯肉）
3	Ⅰ-1章 ①口腔とは(4/24)	3.固有口腔（口蓋、口腔底、舌）
4	Ⅰ-1章(5/8) ②口腔を構成する骨	頭蓋骨概説　1.頭蓋を構成する骨（頭蓋の前面、上面、後面、側面） ※ 中間試験
5	Ⅰ-1章(5/15) ②口腔を構成する骨	1.頭蓋を構成する骨（頭蓋の下面、内面）
6	Ⅰ-1章(5/22) ②口腔を構成する骨	2.口腔を構成する骨（上顎骨、口蓋骨、下顎骨、舌骨）
7	Ⅰ-1章④顎関節(5/29)	1.骨（下顎頭、下顎窩）　2.軟組織（関節円板、関節包、靭帯） ※外側翼突筋は後期口腔解剖学Ⅱで講義します。
8	期末試験	前期　期末試験(6/5　実施予定)

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	口腔解剖学Ⅱ
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年・後期
５．単位数	2単位
６．担当講師	浜田義信
７．授業形式	講義（原則として2階実習室で行い、モニターの映像を利用します）。
８．授業の目標	口腔解剖学は歯科医学の基礎となるもので、歯科衛生士業務を行う上においても必修科目です。この授業では全身解剖学の知識をもとに、口腔を中心とした頭頸部の構造とその名称の習得を目標とします。 なお、具体的な到達目標は教科書各章の冒頭に記載された項目とします。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とし、中間試験の結果を加味いたします。
１０．受講上の注意	前期口腔解剖学Ⅰに準じます。 また、授業で使用するスライドは事前に Microsoft Teams（解剖学・口腔解剖学のチーム）にアップロードしますので適時確認をお願いします。
１１．教科書	『歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』 全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版
１２．副読本	特にありません。
１３．推薦参考図書	特にありません。

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	1章③ 頭頸部の筋と作用	骨格筋総論、顔面筋（表情筋）
2		咀嚼筋
3		舌筋、頸部の筋、顎下三角とオトガイ下三角、翼突下顎隙と翼突下顎縫線
4	1章⑤ 口腔周囲の脈管	動脈系（大動脈弓から顎動脈）　※ 中間試験①
5		動脈系（顎動脈の詳細と下顎骨の復習）
6		静脈系、リンパ系
7	1章⑥ 神経	神経系総論、脳神経概要
8		三叉神経
9		顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経
10		頭頸部に分布する脊髄神経、頭部の自律神経
11	1章⑦ 唾液腺 ⑧ 咽頭と喉頭の構造	唾液腺、大唾液腺、小唾液腺 咽頭、喉頭、食道、嚥下に関与する筋群　※ 中間試験②
12	2章① 歯の解剖学総論	歯とは何か、歯の特徴、歯の構造、歯の種類と名称、歯の数と歯の記号 方向用語、歯冠と歯根の形態、咬頭と歯根の数、歯の左右の特徴、歯の機能
13	2章② 永久歯	永久歯の特徴、永久歯の形態学的特徴（切歯・犬歯・小臼歯）
14		永久歯の形態学的特徴（大臼歯）
15	2章③ 乳歯 2章④ 歯の異常	乳歯の特徴、乳歯の機能と特色 歯数の異常、大きさの異常、歯の重複、歯冠の異常歯根の異常、萌出異常
16		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	口腔生理学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年・後期
５．単位数	2単位
６．担当講師	宗形 芳英
７．授業形式	講義　（液晶プロジェクタ2台使用）
８．授業の目標	全身の健康維持と口腔機能との関わりについて理解するために、歯および口腔の機能、口腔感覚、咬合と咀嚼、嚥下と嘔吐、発声機構、唾液のはたらきなどについて学習する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	予習を行い、不明な点があればすぐに質問をしてその場で理解するように努めること。当日の授業内容を配布プリントと教科書で復習し、自分の理解を確認すること。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　『歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』　全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版
１２．副読本	特になし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ-３　歯および歯周組織の構造と機能	エナメル質・象牙質-歯髄複合体・セメント質
2	Ⅰ-３　歯および歯周組織の構造と機能	歯根膜・歯槽骨・歯肉
3	Ⅲ-１　歯・口腔，顔面の感覚	口腔顔面領域の神経生理学・口腔顔面痛
4	Ⅲ-１　歯・口腔，顔面の感覚	口腔顔面領域の触圧覚・口腔顔面領域の温度感覚ほか・口腔感覚とおいしさ
5	Ⅲ-２　味覚と嗅覚	味覚：味覚の役割・味覚の感受性・味覚受容器
6	Ⅲ-２　味覚と嗅覚	味覚：味覚の神経機構・味覚障害と味盲・加齢と味覚 嗅覚
7	Ⅲ-３　咬合と咀嚼・吸啜	下顎位・下顎の運動・顎反射
8	Ⅲ-３　咬合と咀嚼・吸啜	摂食行動・咀嚼能力・吸啜
9	Ⅲ-４　嚥下と嘔吐	嚥下：摂食・嚥下の流れ・嚥下の概要・嚥下時の食塊の動き
10	Ⅲ-４　嚥下と嘔吐	嚥下：嚥下の神経機構・嚥下の病態 嘔吐
11	Ⅲ-５　発声・発語	発声機構の概要・声の生成
12	Ⅲ-５　発声・発語	構音のメカニズム・歯・口腔の病態と発音
13	Ⅲ-６　唾液	唾液の分泌機構
14	Ⅲ-６　唾液	唾液の性状・成分の機能・唾液と疾患
15		口腔生理学のまとめ
16		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	病理学・口腔病理学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・後期
５．単位数	２単位
６．担当講師	大根　光朝
７．授業形式	コンピューターとプロジェクターを使用する講義
８．授業の目標	病理学を学んで専門科目理解の基盤とし、国家試験の学力レベルへ到達する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	講義で学習した内容を、講義後半に行う小テストで確認し、正しく理解する。
１１．教科書	病理学　全国歯科衛生士教育協議会　編集　　医歯薬出版
１２．副読本	病理学・口腔病理学テキスト　編集 大根光朝
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	病理学総論　第１章　病因論 第２章　遺伝性疾患と奇形	①内因と外因　②遺伝子疾患　③奇形
2	第３章　循環障害	①循環系の大要　②循環障害の種類
3	第４章　代謝障害と退行性病変	①代謝障害（変性・代謝異常・萎縮・細胞死）
4	第５章　増殖と修復	①肥大・再生　②肉芽組織　③創傷治癒
5	第６章　炎症と免疫応答異常	①炎症の大要　②炎症の臨床病理
6	第６章　炎症と免疫応答異常	①免疫応答の大要　②免疫応答の各論
7	第７章　腫瘍 口腔病理　第１章 歯の発育異常	①腫瘍　②口腔病理学　歯の異常　③咬合の異常
8	第２章　歯の損傷と付着物 第３章　う蝕	①口腔領域の損傷　②う蝕の大要
9	第３章 う蝕 第４章 象牙質・歯髄複合体病変	①う蝕の発生　②歯髄炎　③象牙質の増生
10	第５章　歯周組織の病態	①根尖部歯周組織の病変　②辺縁部歯周組織の病変　③セメント質増生
11	第６章　口腔粘膜の病変	①口腔粘膜の病変
12	第７章　口腔領域の嚢胞と腫瘍	①嚢胞　②腫瘍
13	第８症　口腔癌	①口腔癌
14	第９章　顎骨の病変 第10章　唾液腺の病変	①顎骨の病変　②唾液腺の病変
15	第11章　口腔領域の奇形 第12章　口腔組織の加齢変化	①唇顎口蓋裂　②口腔組織の加齢変化
16		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	薬理学・歯科薬理学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年　後期
５．単位数	2単位
６．担当講師	岩田　教一
７．授業形式	教科書に沿って進める。iPad持参する事。補助プリント配布。
８．授業の目標	薬理学の基礎を理解させる。歯科で汎用される薬剤を解説する。
９．成績評価	期末試験を基本とするが、小テストを実施し加味する事もある。
１０．受講上の注意	ホームワークの提出は必須　復習必須
１１．教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進３薬理学　全国歯科衛生士教育協議会 監修
１２．副読本	無し
１３．推薦参考図書	薬の基本とはたらきがわかる　薬理学　　編/柳田俊彦　　羊土社

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	1編　総論　1章　2章	薬理学の概論　薬物の作用（薬物と薬理学の違い）　薬物動態
2	1編　総論　3章　4章	薬物の適用方法の種類と特徴　薬物の作用に影響を与える要因
3	1編　総論　5章　6章	薬物の副作用　有害作用　医薬品を適用する際の注意
4	1編　総論　7章　8章	薬物の取り扱い　処方箋について　薬物と法律・薬物と医薬品
5	Ⅱ編　各論　1章　2章	ビタミンとホルモン　末梢神経系に作用する薬物
6	Ⅱ編　各論　3章	中枢神経系に作用する薬物　特に全身麻酔薬等
7	Ⅱ編　各論　4章　5章	循環器系に作用する薬物　　腎臓に作用する薬物　　小テスト
8	Ⅱ編　各論　６～８章	呼吸器系に作用する薬物　消化器系に作用する薬物　血液に作用する薬物
9	Ⅱ編　各論　9章　10章	免疫と薬　悪性腫瘍と薬
10	Ⅱ編　各論　11～13章	代謝性疾患治療薬　炎症と薬　痛みと薬
11	Ⅱ編　各論　14章　15章	局所麻酔薬　抗菌感染薬
12	Ⅱ編　各論　16章	消毒に使用する薬剤（高水準　中水準　低水準）
13	Ⅱ編　各論　17～19章	う蝕予防薬　歯内療法薬　歯周疾患治療薬
14	Ⅱ編　各論　20章	顎・口腔粘膜疾患と薬
15	Ⅱ編　各論　21章	漢方医学と薬物　薬理学のまとめと復習
16	期末試験	期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	微生物学・口腔微生物学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	大根 光朝
７．授業形式	コンピューターとプロジェクターを使用する講義
８．授業の目標	微生物学の知識を深めて専門科目理解の基礎とし、国家試験合格のレベルに到達する。
９．成績評価	期末試験の点数に加えて講義で行う小テストや出席、授業態度等で評価する。
１０．受講上の注意	講義の各回で実施する確認問題を通して学習内容を正しく理解する。
１１．教科書	微生物学　全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版
１２．副読本	微生物学テキスト　編集 大根光朝
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編　微生物学１・２・３章	感染と微生物　微生物について　細菌の形態、構造
2	Ⅰ編　微生物学３章	外来菌と常在菌　細菌の代謝と増殖
3	Ⅰ編　微生物学３章	細菌の病原因子
4	Ⅲ編　病原微生物学１章	細菌の種類と感染症
5	Ⅲ編　病原微生物学１章	細菌の種類と感染症
6	Ⅱ編　口腔微生物学１・２・３章	歯垢バイオフィルム　う蝕
7	Ⅱ編　口腔微生物学４章	歯周病
8	Ⅱ編　口腔微生物学編５章 Ⅲ編　病原微生物学３・４・５章	その他の口腔感染症
9	Ⅲ編　病原微生物学２章	ウイルスの種類と感染症
10	Ⅲ編　病原微生物学２章	ウイルスの種類と感染症
11	Ⅰ編　微生物学４章	培養法　培地　顕微鏡観察
12	Ⅰ編　微生物学５章	化学療法
13	Ⅰ編　微生物学６章	消毒法　滅菌法　感染症と院内感染対策
14	Ⅳ編　免疫学１章	免疫
15	Ⅳ編　免疫学２・３章	アレルギー　自己免疫疾患
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	隣接医学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第２学年・前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	大沼 英子
７．授業形式	教科書＋スライド（i-padおよび必要に応じたプリント）
８．授業の目標	身体の基礎（解剖学・生理学など）と病態の基礎（病理学など）を基にして実際の口腔と関連する全身疾患の理解する
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	解剖学・生理学・病理学など関連する内容について講義の内容に合わせて適宜復習をし、基礎的知識の確認をしながら疾患を理解してほしい
１１．教科書	医歯薬出版「デンタルハイジーン別冊　歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック」
１２．副読本	必要に応じて説明
１３．推薦参考図書	必要に応じて説明

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	序論／代謝・内分泌疾患	隣接医学とは　代謝・内分泌　代謝・内分泌疾患①
2	代謝・内分泌疾患	代謝・内分泌疾患②
3	消化器疾患	消化器の機能　消化器疾患①
4	消化器疾患	消化器疾患②
5	循環器疾患	循環器の機能　循環器疾患①
6	循環器疾患	循環器疾患②
7	血液疾患	血液疾患
8	呼吸器疾患	呼吸器疾患
9	呼吸器疾患／腎・泌尿器疾患	呼吸器疾患
10	腎／泌尿器疾患	腎・泌尿器の機能　腎・泌尿器疾患
11	感染症	感染と免疫　膠原病
12	感染症	感染症
13	神経疾患／精神疾患	神経疾患　精神疾患①
14	精神疾患	精神疾患②
15	がん／産科・婦人科疾患・妊娠	がん　産科・婦人科疾患・妊娠
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	衛生学・公衆衛生学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	大沼 英子
７．授業形式	教科書＋スライド（i-padおよび必要に応じたプリント）
８．授業の目標	衛生学・公衆衛生学の基礎を理解することで、健康の保持・増進、疾病の予防などを図ることを目的とする
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	社会や環境など身近な問題に関する内容も多く、また既に学んだ内容も含まれるため、内容の確認を行い、理解を深めてほしい
１１．教科書	医歯薬出版「保健生態学　第３版」
１２．副読本	必要に応じて説明する
１３．推薦参考図書	必要に応じて説明する

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	１章　総論	保健生態学総論　健康と予防
2	２章　疫学	疫学概要　疾病に関する指標　疫学の方法
3	３章　人口統計①	世界と日本の現状　人口問題　人口構造　人口統計
4	３章　人口統計②	人口静態統計　人口動態統計
5	３章　人口統計③	疾病統計
6	４章　健康と環境	環境衛生　環境とは　環境問題空気と大気汚染　温熱環境
7	４章　健康と環境	空気と大気汚染　温熱環水
8	４章　健康と環境	水　水質汚濁　　土壌汚染
9	４章　健康と環境	騒音　悪臭　廃棄物処理
10	４章　健康と環境	放射線　放射線障害　住居・衣類の健康
11	５章　感染症	感染症とは　感染経路　感染症の予防
12	５章　感染症	感染症の分類①
13	５章　感染症	感染症の分類② 主な感染症
14	６章　食品と健康	食中毒
15	６章　食品と健康	栄養と健康
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	口腔衛生学Ⅰ
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科 1部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　後期
５．単位数	２単位
６．担当講師	高津　寿夫
７．授業形式	基本的には教科書に従い、映像機器を用い、また適宜に板書を行って講義する。なお内容的に不足と思われる事柄については参考プリントを配布して説明し、理解の向上を図る。
８．授業の目標	先ず口腔の健康の定義を理解し、さらに歯と口腔組織の構造と機能の理解に基づいて、それらの健康保持、増進の手段を総論的に学習する。次いで、得られた知識を踏まえて口腔清掃の意義と種類、歯科疾患の疫学、う蝕の予防法につき基礎面および応用面の知識を習得する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価することもある。
１０．受講上の注意	板書された説明、追加事項は講義ノートや配布プリントあるいは教科書余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用出来るように努める。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　保健生態学、第１版　著者：眞木吉信ほか、医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅱ編　１章	Ⅱ編　歯・口腔の健康と予防 １章　総論　①歯・口腔の健康　１．口腔の健康と口腔衛生学の意義、２．歯・口腔の健康と予防の意義、３．歯・口腔の健康保持増進のための手段　②歯・口腔の構造と機能　１．歯・口腔の構造（１）
2	Ⅱ編　１章	１．歯・口腔の構造（２）、２．歯・口腔の発生と成長・発育（１）
3	Ⅱ編　１章	２．歯・口腔の発生と成長・発育（２）
4	Ⅱ編　１章	３．歯・口腔の機能、４．口腔の健康と全身の健康
5	Ⅱ編　１章	③歯・口腔の付着物・沈着物　１．ペリクル、２．プラーク
6	Ⅱ編　１章、2章	３．マテリアアルバ、４．歯石、５．舌苔、６．外来性色素沈着 2章　歯科疾患の疫学　①う蝕の疫学　１．う蝕の疫学的特性　２．わが国におけるう蝕の有病状態
7	Ⅱ編　２章	②歯周病の疫学　１．歯周病の疫学的特性、２．わが国における歯周病の状況、③歯の喪失の疫学　④その他の疫学　１．不正咬合、２．顎関節症、３．口腔癌、４．口腔粘膜疾患、の各疫学
8	Ⅱ編　３章	３章　口腔清掃　①口腔清掃の意義　②口腔清掃法　１．自然的清掃法、２．機械的清掃法、３．手術的清掃法、４．化学的清掃法、③機械的清掃法と用具　１．歯ブラシ、２．歯間部清掃用具
9	Ⅱ編　３章	３．その他の清掃用具、４．プラークの染め出し　④不適切な口腔清掃による為害作用　１．歯ブラシによるもの

10	Ⅱ編　３章、４章	２．歯間部補助清掃用具によるもの、３．舌ブラシによるもの、４．歯ブラシと歯磨き剤の併用によるもの　⑤歯磨き剤と洗口液・洗口剤　１．種類、２．歯磨き剤の組成、３．洗口液の組成、４．医薬品としての洗口剤 ４章　う蝕の予防　①う蝕発生と進行のメカニズム　１．う蝕の定義、２．う蝕発生の病因論の歴史
11	Ⅱ編　４章	３．う蝕の発生・進行のメカニズム　②う蝕の分類と症状　③う蝕の発生要因　１．う蝕発生の概念図、２．宿主と歯の要因（宿主要因）
12	Ⅱ編　４章	３．口腔細菌の要因（病原要因）、４．飲食物（食餌性基質）の要因（環境要因）、５．う蝕の社会経済的要因
13	Ⅱ編　４章	④う蝕活動性試験　１．目的、２．種類と方法　⑤う蝕の予防方法　１．予防医学の概念とう蝕予防
14	Ⅱ編　４章	２．発生要因に応じたう蝕の予防、３．手段とう蝕予防、４．う蝕予防のエビデンス
15	補遺	授業内容に関する補充および復習とまとめ
16		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	口腔衛生学Ⅱ
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第2学年・前期
５．単位数	2単位
６．担当講師	①高津　寿夫　　②宮澤　忠蔵
７．授業形式	①基本的には教科書に従って、映像機器や白板を使って講義を行い、内容的に不足と思われる事項については参考資料で補う。なお毎回、授業の終了直前の約10分間を利用して、重要事項についての理解度を確認するために小テストを行う。また授業内容の中からテーマを1つ選びホームワークを課すこととしている。 ②基本的には教科書に従い、内容をまとめた配布資料をもとにプロジェクターを用いて講義を行う。毎回、重要事項の理解度を高めるための課題を課す。
８．授業の目標	①口腔衛生学Ⅰにおける学習領域における理解を踏まえ、先ずはう蝕予防の有力手段とされているフッ化物の応用について学習する。また、う蝕と並ぶ2大歯科疾患の1つである歯周疾患、さらに、そのほか口腔に現れる多種多様な疾患・異常の概要と予防法について学習する。基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。 ②疫学の基本を学習して、疫学手法を用いて疾病の原因・要因を解明する技法を理解する。歯科疾患および口腔清掃状態などの数量化を理解する。
９．成績評価	①定期試験で評価する。併せて出席状況、、課題などの評価も加味する。 ②学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	講義中のノート、配布資料、課題は学生自身が工夫して整理保管すること。
１１．教科書	①歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学　　医歯薬出版 ②歯科衛生学シリーズ　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学　医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	②2022年歯科疾患実態調査報告　国民衛生の動向2024/2025 （厚生労働統計協会）

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	保健生態学 Ⅱ編　５章	Ⅱ編　歯・口腔の健康と予防 ５章、フッ化物によるう蝕予防 ①わが国のフッ化物応用、②フッ化物の一般的性状と用語、③人間生態系におけるフッ化物、④フッ化物摂取量とその基準、⑤フッ素の代謝、 ⑥フッ化物の毒性　１．急性毒性、２．慢性毒性（１）
2	保健生態学 Ⅱ編　５章	⑥－２．慢性毒性（２）、⑦フッ化物応用によるう蝕予防方法（１、２）
3	保健生態学 Ⅱ編　５章、６章	⑦フッ化物応用によるう蝕予防方法（３，４，５，６）、⑧フッ化物のう蝕予防メカニズム ６章、歯周疾患の予防　①歯周疾患の症状と分類
4	保健生態学 Ⅱ編　６章、７章	②歯周疾患の発症機序、③歯周疾患の全身に与える影響、④歯周疾患の予防手段と処置 ７章、その他の疾患・異常の予防　①不正咬合の予防
5	保健生態学 Ⅱ編　７章	②口臭の予防、③その他の歯科疾患・異常の予防
6	1章 保健情報と保健統計	保健情報とは：データから作成される情報の特性を理解する。 口腔保健に関係のある主な国家統計を説明できる。

7	2章 保健情報と疫学(1)	疫学総論：疫学の定義および基本を学び、医療情報の疫学分析から健康障害の発生要因を疫学的に導き出す手法を理解する。
8	2章 保健情報と疫学(2)	疫学の方法論1：調査方法、有病と罹患、記述疫学、分析疫学を理解する。
9	2章 保健情報と疫学(3)	疫学の方法論2：介入研究、スクリーニングテストの要件を理解する。
10	3章 歯科疾患の指数(1)	数量化と指数：指標と指数、歯科疾患量の指数化方法を理解する。
11	3章 歯科疾患の指数(2)	う蝕の指数1：う蝕の診断基準、う蝕の指数化を理解する。
12	3章 歯科疾患の指数(3)	う蝕の指数2：乳歯列(dmf,def)・永久歯列(DMF)の各指数を理解する。
13	3章 歯科疾患の指数(4)	歯周疾患の指数：全部診査法と部分診査法の各指数を理解する。
14	3章 歯科疾患の指数(5)	口腔清掃状態の指数：口腔付着物の数量化による各指数を理解する。
15	3章 歯科疾患の指数(6)	その他の指数：不正咬合と歯列不正の指数など各指数を理解する。まとめ。
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	口腔衛生学Ⅲ
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第２学年・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	宮澤　忠蔵
７．授業形式	基本的には教科書に従い、内容をまとめた配布資料をもとにプロジェクターを用いる。毎回、前回授業の重要事項を小テストで確認しながら進行する。
８．授業の目標	公衆歯科衛生活動を進めるための基本を理解する。さらに歯科における公衆衛生活動の実際を理解し、歯科保健医療活動を実践する能力を養う。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する。
１０．受講上の注意	講義中のノート、配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
１１．教科書	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学（医歯薬出版）
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	国民衛生の動向　2024/2025（厚生労働統計協会）

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅲ編 1章 地域保健・公衆衛生（1）	①地域社会と地域保健の概念、②地域保健の組織（保健所、保健センター他）
2	1章 地域保健・公衆衛生（2）	③地域保健の新たな概念（ヘルスプロモーション他）、④地域保健活動の進め方（PDCA）⑤健康づくり対策と地域歯科保健（健康日本21（第3次）他）
3	2章 母子保健	①母子保健の目的および概要、②母子保健、③小児保健、④歯・口腔について（1歳6か月児・3歳児健診）、⑤母子保健の現状と今後
4	3章 学校保健	①学校保健の意義および概要、②学校保健の活動と組織、③学校歯科保健（学校保健の領域と学校歯科健診他）
5	4章 成人保健 5章 産業保健	①成人保健の意義と特徴～④成人期の歯科保健（特定健康診査と特定保健指導、歯科検診）①産業保健の概念、②職業性疾病、③産業保健管理、④産業保健活動（健康診断他）
6	6章 高齢者保健 7章 精神保健	①高齢者保健の意義、②高齢者保健のための行政組織と関係する法律 ①精神保健とは、②精神衛生から精神保健へ、③わが国の精神保健のあゆみ、④精神保健・医療・福祉、⑤精神障害者の歯科保健
7	8章 災害時の歯科保健 9章 国際保健	①大規模災害時の保健医療対策、②被災地での歯科保健対策、③災害時の個人識別における歯科衛生士の役割。①開発途上国における健康問題、②持続可能な開発目標、③国際化に伴うわが国の保健医療問題、④国際協力
8		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科統計学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第２学年・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	宮澤　忠蔵
７．授業形式	基本的には教科書に従い、内容をまとめた配布資料とプロジェクターを用いる。科目の特性上、演習も併せて行う。
８．授業の目標	基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・演習等を総合的に評価する。
１０．受講上の注意	講義中のノート、配布資料、演習問題資料は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
１１．教科書	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み３ 保健情報統計学（医歯薬出版）
１２．副読本	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学（医歯薬出版）
１３．推薦参考図書	やさしい保健統計学（南江堂）

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	1章保健情報と保健統計	①保健情報とは、②保健統計とは、③保健情報の種類、④国家統計調査
2	2～3章歯科疾患の指数	①う蝕の指数、②歯周疾患の指数、③口腔清掃状態の指数、　演習1歯科疾患の指数（う蝕の指数、歯周疾患の指数、口腔清掃の指数）
3	4章保健情報の分析手順	①保健情報の収集、②調査、③母集団と標本抽出、　演習2 母集団からの標本抽出（無作為抽出による標本抽出とその集計）
4	5章保健統計の方法1	①データの特性、②記述統計ー代表値・散布度・相関、③推定と信頼区間、演習3 標本の代表値(平均値、中央値、最頻値)と散布度（分散、標準偏差）
5	5章保健統計の方法2	④検定、⑤保健情報の多変量解析、⑥その他、 演習4 2変量の相関分析（相関図、相関係数、回帰式）
6	6章保健情報の分析演習	①解析と検定の演習、②プレゼンテーション：データの表現、　演習5 検定（1標本、2標本、相関係数、百分率）
7	7章情報の保護と倫理	①情報社会の特性と問題点、②情報の開示、③個人情報の保護、④インターネットと情報倫理
8		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	社会歯科学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第３学年　後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	正田　光典
７．授業形式	基本的には教科書に従い講義する．内容的に不足と思われる事柄については参考プリントを配布する。
８．授業の目標	基礎歯学・社会歯学の素養を身につけたうえで、歯科三法を中心にした法体系の基礎を学習し、リーガルマインドについても履修する。あわせて、社会保障の枠組みおよび具体的な知識を習得することを目標とする。
９．成績評価	期末試験成績により評価する。
１０．受講上の注意	授業で配布する資料および重要項目は各自整理整頓して保管すること。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	第１章	わが国の医療制度と歯科衛生士
2	第１章・第２章	医療関係職種
3	第３章	その他の関係法規（医療法、歯科口腔保健の推進に関する法律など）
4	第４章	社会保障　日本の社会保障制度を理解する。
5	第４章	社会保障　医療保険
6	第４章	社会保障　介護保険
7	第４章	社会保障　年金保険、雇用保険、労働災害補償保険
8	第５章	医療の動向
9		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科衛生士概論　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等22年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年・前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	柴田　佐智子
７．授業形式	講義
８．授業の目標	科学的な根拠をもって歯科衛生活動を展開するために歯科衛生過程を学び、歯科衛生士の業務内容や要点を、法律的性格からも理解し、医療保険にたずさわる他職種の方々の業務・資格も相互理解し社会的役割を自覚する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を評点とする。ただし、授業内に実施する小テストやホームワークの内容と提出状況、授業態度を加味する場合がある。
１０．受講上の注意	教科書をよく読み、不明な点があればすぐに質問をしてその場で理解するように努めること。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ教本　「歯科衛生学総論」 全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	7章 歯科衛生士の活動と 組織	歯科衛生活動の場、現況
2	2章 歯科衛生士の歴史	歯科衛生の誕生と経緯。3大業務内容。歯科衛生士と歯科助手の違い。
3	1章 歯科衛生学とは	歯科衛生と健康 歯科衛生活動の対象：ライフステージに関わる歯科衛生活動 歯科衛生活動の領域
4 5	3章 歯科衛生活動のため の倫理	予防の概念 歯科衛生の考え方：科学的思考（ICF、EBM、批判的思考、保健行動、健康信念モデル、他） ヒューマンニーズ倫理：マズローの欲求階層理論、歯科衛生に関連した8つのヒューマンニーズ
6	4章 歯科衛生過程	歯科衛生過程活用の利点。流れ：5つのプロセスと書面化
7 8	5章 歯科衛生士法と 歯科衛生業務 6章 歯科衛生士と 医療倫理	歯科衛生士と歯科衛生業務。歯科衛生士の役割。 安全管理：リスクマネジメント、感染予防対策 歯科衛生士と医療倫理：倫理の必要性。医の倫理と患者の権利。歯科衛生と倫理。対象の自己決定権の尊重。インフォームドコンセント。
9	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科臨床概論
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年・後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	正田　光典
７．授業形式	基本的には教科書に従い講義する．内容的に不足と思われる事柄については参考プリントを配布する。
８．授業の目標	歯科衛生士科の学生が歯科の諸科目を学ぶに当たっては、歯科臨床についておおよその理解をもって臨むことが望ましい。このような観点から本講義が学生にとって歯科医学や歯科医療への入門案内となるように、また歯科臨床のシステムや診療の流れを通じて歯科衛生士の役割を学生に自覚し てもらうことを目標とする。
９．成績評価	期末試験成績により評価する。
１０．受講上の注意	追加事項を講義ノートや配布プリントあるいは教科書余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用できるように努める。
１１．教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論　医歯薬出版
１２．副読本	特になし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編　１章・２章	歯科医療と医の倫理 　医療と診療の意味や歯科医療の特徴や特異性について、医療従事者の心がまえとしての医の倫理とインフォームドコンセントについて、また歯科診療従事者の種類と役割などについて講義する。
2	Ⅰ編　２章・３章	歯科患者とその心理 　先ず患者の心理について、さらに問診事項や内容などについて、また小児，高齢者といった年齢層に応じた対応や歯科領域以外の疾患や障害をもつ歯科患者の応対について講義する。
3	Ⅰ編　３章	歯科診療所における業務・歯科診療の流れ 　担う役割、患者の受け入れから治療完了までの流れの概要を各診療科目別に講義する。
4	Ⅱ編　２章	歯科保存の概要
5	Ⅱ編　２章	歯科補綴の概要
6	Ⅱ編　２章	小児歯科の概要
7	Ⅱ編　２章	歯科矯正の概要・口腔外科の概要
8		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	う蝕学
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　 1部・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年　前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	高津　寿夫
７．授業形式	基本的には教科書に従い、映像機器と白板を使って講義する。また、内容的に不足と思われる事柄については参考プリントを配布し説明する。なお適宜、他の映像機器をも用い、理解の向上を図る。
８．授業の目標	歯や歯周組織の疾患や病的状態を治療除去し、その固有の形態と機能を回復する方法ならびに予防やメインテナンスを攻究する歯学分野は歯科保存学と呼称されている。本学問分野は対象とする病巣の部位・範囲や病態の違いにより、う蝕学と歯周病学に区分され、さらに前者は保存修復学と歯内療法学に細分化されている。しかしながら三者は内容的に全く独立したものではなく、相互に有機的に結びついた関係にあり、歯の保存に当たってはこれら三部門にわたる総合的な治療を必要とする場合も多い。授業は上記の事柄を踏まえ、前期で保存修復学および歯内療法学についてう蝕学として講義し、歯周病学は後期に講義することとする。そこで先ず保存修復学、歯内療法学に関し、う蝕をはじめとする歯の硬組織疾患、それに継発する歯髄病変や根尖性歯周病変についての病態の把握・診断と各種の治療法ならびに予防やメインテナンス等について学び、知識と理解力を習得させることを目標とする。また各診療システムやその流れを通じて歯科衛生士の役割を学生に自覚してもらうことも目標とするものである。なお、その到達目標としては、基本的な事柄は全員が理解できるようにすることとする。また詳細で深い内容の事柄については、興味をもって自らが学習意欲を示し、かつ理解を助成させ得る講義となるよう努めることとする。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	板書された説明、追加事項は講義ノートや配布プリントあるいは教科書余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用できるように努める。
１１．教科書	保存修復学・歯内療法学（歯科衛生学シリーズ）、第１版、編著：千田　彰、石井信之　ほか 医歯薬出版
１２．副読本	特になし
１３．推薦参考図書	保存修復学（第６版）、編集：千田　彰　ほか、医歯薬出版 歯内治療学（第5版）、編著：勝海　一郎　ほか、医歯薬出版

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編　１章、２章	Ⅰ編、歯の保存療法とは １章、歯の保存療法の種類 ①歯の保存療法と歯科保存学、②対象となる疾患 ２章、歯および歯周組織の検査、 ①口腔検査の基礎知識と前準備、②医療面接、③自覚的・他覚的情報の収集
2	Ⅱ編　１章	Ⅱ編、保存修復 1章、保存修復の概要 ①保存修復学とは、②窩洞と保存修復治療、③保存修復治療の概要、④保存修復法の種類
3	Ⅱ編　１章、２章	⑤保存修復治療の準備、⑥歯の切削、窩洞形成、⑦歯髄の保護 2章、直接法修復　①直接法修復とは、②コンポジットレジン修復（１）
4	Ⅱ編　２章	②コンポジットレジン修復（２）、③セメント修復

5	Ⅱ編　４章	４章、間接法修復　①間接法修復とは、②インレー修復およびアンレー修復
6	Ⅱ編　４章	③ベニア修復（ラミネートベニア修復）、④合着材および接着材 ５章、補修修復　①補修修復とは、②再研磨、③補修修復の適応症と術式
7	Ⅱ編　３章、6章	3章、歯の漂白　①歯の着色・変色の原因と処置法、②漂白法の適応症と禁忌症、③歯の漂白法の種類と特徴、④歯の漂白法の臨床的対応と用いる器材・薬剤、⑤歯の漂白後の注意 6章、保存修復における歯科衛生士の役割、①保存修復治療に使用する材料・薬剤の管理、②保存修復治療における患者への説明と指導
8	Ⅲ編　１章	Ⅲ編、歯内療法 １章、歯内療法の概要　①歯内療法学とは、②象牙質知覚過敏症、③歯髄疾患、④根尖性歯周組織疾患
9	Ⅲ編　１章、２章	⑤歯内－歯周疾患、⑥歯内療法特有の検査と診断、⑦抜髄法・感染根管治療の術式の概要 2章、歯髄保存療法　①歯髄保存療法とは、②歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬、③覆髄法、④歯髄保存療法の診療の流れ
10	Ⅲ編　３章、4章	3章、歯髄除去療法　①歯髄除去療法とは、②生活断髄法（生活歯髄切断法）、③抜髄法（麻酔抜髄法） 4章、根管治療、根管充填　①根管治療の概要、②根管治療の術式（１）
11	Ⅲ編　４章	②根管治療の術式（２）
12	Ⅲ編　４章	③根管充填、④根未完成歯の根管処置
13	Ⅲ編　５章、６章	5章、外科的歯内療法　①外科的歯内療法とは、②外科的歯内療法の術式 6章、歯の外傷　①歯の外傷とは、②歯の外傷の分類と処置、③歯の保存液を用いた脱離歯の保存法
14	Ⅲ編　７章、8章	７章、歯内療法における安全対策 8章、歯内療法における歯科衛生士の役割　①歯内療法に使用する器材、薬剤の管理、②歯内療法処置における患者への説明と指導
15	補遺	授業内容に関する補充および復習とまとめ
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯周病学
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第２学年・後期
５．単位数	２単位
６．担当講師	高津　寿夫
７．授業形式	基本的には教科書に従い、映像機器を用い、また適宜に板書を行って講義する。なお内容的に不充分と思われる事柄については参考プリントを配布して説明し、理解の向上を図る。
８．授業の目標	現在、歯周病の治療ならびに予防の面においては歯科衛生士の果たす役割はますます重要なものとなっている。このような状況のなか、本講義は歯周病に関し、必用な知識と理解力を修得させることを目標とするものである。即ち、Ⅰ編では歯周病の基礎知識として重要な歯周組織の構造や機能、歯周病の分類や病因、さらに全身疾患との関連などについて講義する。　Ⅱ編においては歯周治療に必要な検査、診断、治療計画と、各種治療法の内容と相互関係などについて講義する。Ⅲ編においては歯周治療における歯科衛生士の業務・役割につき講義する。なお、その到達目標としては基本的な事柄は全員が理解できるようにし、詳細で深い内容の事柄については、興味をもって自らが学習意欲を示し、かつ理解を助成させ得る講義となるよう努める。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価することもある。
１０．受講上の注意	板書された説明、追加事項は講義ノートや配布プリントあるいは教科書余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用できるように努める。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　歯周病学　第１版　著者：申　基喆　ほか、医歯薬出版
１２．副読本	特になし
１３．推薦参考図書	標準歯周病学、第４版、　　編集：鴨井　久一　ほか、医学書院

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編　１章、２章	１編、歯周病の基礎知識 １章、歯周治療とは ①歯周病の現状と治療、②歯科衛生業務と歯周治療 ２章、正常な歯周組織の構造と機能 ①歯周組織（１）
2	Ⅰ編　２章、３章	①歯周組織（２）、②歯周組織と咬合、③審美性の維持、④歯周組織の加齢変化、付：インプラント周囲組織の特徴 ３章、歯周病の分類と原因 ①歯周病の分類（１）
3	Ⅰ編　３章	①歯周病の分類（２）、②歯周病の原因（１）
4	Ⅰ編　３章	②歯周病の原因（２）、③ペリオドンタルメディシン（歯周医学）、④インプラント周囲疾患
5	Ⅱ編　１章	Ⅱ編、歯周治療の実際 １章、歯周治療の進め方 ①歯周病の予防と歯周治療の基本、②歯周治療の進め方
6	Ⅱ編　２章	２章、歯周病の検査 ①主訴を中心とした一般検査、②歯周病検査

7	Ⅱ編　２章、３章	③咬合の診査、④画像診断、⑤その他の診査 ３章、歯周基本治療 ①歯周基本治療の目的と効果、　②歯周基本治療の内容と実際（１）
8	Ⅱ編　３章、４章	②歯周基本治療の内容と実際（２）、付：薬物療法 ４章、歯周外科治療 ①歯周外科治療の目的と分類、②歯周外科治療後の治癒形態
9	Ⅱ編　４章	③歯周外科治療に用いる器材、④種々の歯周外科治療（１）
10	Ⅱ編　４章	④種々の歯周外科治療（２）
11	Ⅱ編　４章、５章	付：根分岐部病変の治療、付：歯周－歯内病変の治療 ５章、歯周治療としての口腔機能回復治療 ①歯周治療における口腔機能回復治療とは、②咬合調整、③歯周－矯正治療、④歯の固定法
12	Ⅱ編　５章、６章	⑤歯科用インプラントによる治療 ６章、メインテナンス　　①メインテナンスの重要性とその意義、②メインテナンス、ＳＰＴの実際、③メインテナンス、ＳＰＴの内容
13	Ⅲ編　１章	Ⅲ編、歯周治療における歯科衛生士の業務 １章、歯周治療における歯科衛生士の役割　　①歯周治療の進め方、②歯周病検査・診療時の補助、③リスクファクターなどに対する指導（１）
14	Ⅲ編　１章	③リスクファクターなどに対する指導（２）
15	補遺	授業内容に関する補充および復習とまとめ
16		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科補綴学
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	正田光典
７．授業形式	プロジェクターを用いた講義
８．授業の目標	歯科補綴に関する基礎知識を習得させ，歯科補綴の臨床を補助し得るだけの能力を身につけることを目標とする．
９．成績評価	定期試験成績を基本とし，出席状況，ホームワークの提出状況を総合的に勘案して評価を行う．
１０．受講上の注意	配布資料ならびに教科書の予習と復習
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　歯科補綴学
１２．副読本	歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック第２版
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編１章・２章	補綴歯科治療の基礎知識
2	Ⅰ編１章・Ⅱ編２章	固定性補綴装置（ｸﾗｳﾝの分類と特徴）
3	Ⅰ編１章・Ⅱ編２章	固定性補綴装置（ｸﾗｳﾝの分類と特徴）
4	Ⅰ編１章・Ⅱ編２章	固定性補綴装置（ﾌﾞﾘｯｼﾞの種類と特徴）
5	Ⅰ編１章・Ⅱ編２章	固定性補綴装置（ﾌﾞﾘｯｼﾞの種類と特徴）
6	Ⅰ編１章・Ⅱ編３章	可撤性補綴装置（全部床義歯の分類と構造）
7	Ⅰ編１章・Ⅱ編３章	可撤性補綴装置（全部床義歯の分類と構造）
8	Ⅰ編１章・Ⅱ編３章	可撤性補綴装置（部分床義歯の分類と構造）
9	Ⅰ編１章・Ⅱ編３章	可撤性補綴装置（部分床義歯の分類と構造）
10	Ⅱ編２章	ｸﾗｳﾝ・ﾌﾞﾘｯｼﾞ治療の実際、治療時の業務、患者指導
11	Ⅱ編２章	ｸﾗｳﾝ・ﾌﾞﾘｯｼﾞ治療の実際、治療時の業務、患者指導
12	Ⅱ編３章	有床義歯治療の実際、治療時の業務、患者指導
13	Ⅱ編３章	有床義歯治療の実際、治療時の業務、患者指導
14	Ⅱ編３章・４章	有床義歯治療の実際、治療時の業務、患者指導、ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ治療の概要
15	Ⅰ編２章・３章	咬合様式と顎運動、歯の欠損に伴う障害
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	口腔外科学・歯科麻酔学
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第２学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	大根光朝
７．授業形式	コンピューターとプロジェクターを使用する講義
８．授業の目標	口腔外科学・麻酔学の理解を深め、国家試験のレベルへ到達する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	講義の各回で実施する確認問題を通して学習内容を正しく理解する。
１１．教科書	口腔外科学・歯科麻酔学　全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版
１２．副読本	口腔外科・歯科麻酔学テキスト　編集 大根光朝
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編 顎・口腔領域の疾患	１章　口腔外科の概要　２章　先天異常と発育異常
2	Ⅰ編 顎・口腔領域の疾患	３章　損傷
3	Ⅰ編 顎・口腔領域の疾患	４章　口腔粘膜疾患
4	Ⅰ編 顎・口腔領域の疾患	４章　口腔粘膜疾患
5	Ⅰ編 顎・口腔領域の疾患	５章　炎症
6	Ⅰ編 顎・口腔領域の疾患	６章　嚢胞　７章　腫瘍および腫瘍類似疾患
7	Ⅰ編 顎・口腔領域の疾患	７章　腫瘍および腫瘍類似疾患
8	Ⅰ編 顎・口腔領域の疾患	８章　顎関節疾患
9	Ⅰ編 顎・口腔領域の疾患	９章　唾液腺疾患　10章　神経疾患
10	Ⅰ編 顎・口腔領域の疾患	11章　血液疾患
11	Ⅱ編 口腔外科診療の実際	１章　診察と診断　２章　歯科診療と全身疾患　３・４・５章　口腔外科手術
12	Ⅱ編 口腔外科診療の実際	５章　口腔外科小手術
13	Ⅲ編 歯科治療と麻酔	１章　患者管理　２章　局所麻酔
14	Ⅲ編 歯科治療と麻酔	３章　精神鎮静法　４章　全身麻酔　５章　救急時の対応
15	Ⅳ編 歯科衛生士が担う周術期の口腔管理	１・２章　周術期における口腔健康管理
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	小児歯科学
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	正田光典
７．授業形式	プロジェクターを用いた講義
８．授業の目標	小児歯科に関する基礎知識を習得させ，臨床を補助し得るだけの能力を身につけることを目標とする．基礎知識では，特に小児期の成長・発達，永久歯列完成までの咬合変化を習得させる．
９．成績評価	定期試験成績を基本とし，出席状況，ホームワークの提出状況を総合的に勘案して評価を行う．
１０．受講上の注意	配布資料ならびに教科書の予習と復習
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　小児歯科学
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編１章	小児歯科概論
2	Ⅰ編２章	心身の発育
3	Ⅰ編２、４章	心身の発育
4	Ⅰ編２、４章	心身の発育
5	Ⅰ編３章	小児の生理的特徴
6	Ⅰ編５章	歯の発育とその異常
7	Ⅰ編５章	歯の発育とその異常
8	Ⅰ編６章	歯列・咬合の発育と異常
9	Ⅰ編６章	歯列・咬合の発育と異常
10	Ⅰ編７章	小児の歯科疾患（乳歯・幼若永久歯のう蝕）
11	Ⅰ編７章	小児の歯科疾患（小児にみられる歯周疾患）
12	Ⅰ編７章	小児の歯科疾患（小児にみられる口腔軟組織疾患）
13	Ⅱ編１，２章	小児歯科診療（小児期の特徴とその対応）
14	Ⅱ編３章、Ⅲ編３章	小児歯科診療（小児期治療の実際）、小児歯科診療における診療補助
15	Ⅲ編３章、Ⅲ編３章	小児歯科診療（小児期治療の実際）、小児歯科診療における診療補助
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科矯正学
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第２学年・前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	大沼　英子
７．授業形式	講義は教科書を主体とし、スライド（iPad）を使用して行う。適宜プリント等を配布し、確認テストを行う
８．授業の目標	歯科矯正治療の目的、顎・顔面・歯列の発育、不正咬合の原因、さらには不正咬合の診断、年齢に応じた治療内容の実際などを学ぶことで、不正咬合によってもたらされる障害、矯正装置の口腔衛生が与える影響、さらには矯正治療の中での診療補助・予防処置・口腔衛生指導の重要性を理解する。また、歯科衛生士として処置、指導を実践していく上で、柔軟に各内容を行える基本を身につけることを目標とする
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・確認テスト等で総合的に評価する
１０．受講上の注意	解剖・生理、診療補助・予防処置・口腔衛生など関連する内容について、必要に応じて各自補足で学習し、内容の補足、充実させてほしい
１１．教科書	「歯科衛生学シリーズ　歯科矯正学　第2版」　全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
１２．副読本	必要に応じて適宜紹介する
１３．推薦参考図書	必要に応じて適宜紹介する

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編１章　矯正歯科学概論	矯正歯科学の定義・目標・歴史　矯正歯科治療の種類と時期　歯科衛生士の役割
2	Ⅰ編２章　成長・発育	身体および頭蓋・顎顔面、歯牙・歯列の成長発育と口腔機能の発達①
3	Ⅰ編２章　成長・発育	身体および頭蓋・顎顔面、歯牙・歯列の成長発育と口腔機能の発達②
4	Ⅰ編３章　咬合①	正常咬合と不正咬合①　正常咬合、不正咬合の種類
5	Ⅰ編３章　咬合②	正常咬合と不正咬合②　不正咬合の原因
6	Ⅰ編４章　検査と診断①	矯正歯科診断と必要な検査と診断①
7	Ⅰ編４章　検査と診断②	矯正歯科診断と必要な検査と診断②　抜歯の適応　診療補助
8	Ⅰ編５章　矯正歯科治療における生体力学と生体反応	矯正力の種類　歯の移動様式　生体反応　固定　保定
9	Ⅰ編６章　矯正装置①	矯正装置の種類と用途について（可撤式矯正装置と固定式矯正装置）
10	Ⅰ編６章　矯正装置②	矯正装置の種類と用途について（機能的矯正装置～保定装置）
11	Ⅱ編１章	矯正歯科治療に用いる器材と使用の手順①
12	Ⅱ編１章	矯正歯科治療に用いる器材と使用の手順②
13	Ⅱ編２章	口腔筋機能療法（MFT）
14	Ⅰ編７章	歯科矯正治療の実際　矯正治療時のトラブルとその対応
15	Ⅱ編３・４章	歯科矯正臨床における口腔衛生管理　歯科衛生の実践
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科放射線学
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年　後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	正田　光典
７．授業形式	プロジェクターを用いた講義
８．授業の目標	歯科放射線学の知識を習得し、歯科衛生士が果たすべき役割を学ぶ。
９．成績評価	期末試験成績により評価する。
１０．受講上の注意	教科書の予習と復習、配布資料を持参すること。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科放射線　医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	１章	放射線とその性質
2	１章	放射線の生体への影響・放射線の防護
3	１章・２章	歯科におけるエックス線写真の形成、画像診断
4	２章	デジタル撮影システム、口内法エックス線撮影
5	３章・５章	口外法エックス線撮影（パノラマ撮影・頭部エックス線規格撮影）
6	４章	歯科用コーンビームCT
7	５章	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割（セッティングミスと画像）
8		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科予防処置論Ⅰ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等22年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年・前期
５．単位数	2単位
６．担当講師	柴田　佐智子
７．授業形式	講義
８．授業の目標	う蝕や歯周病などの口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるために必要となる基本的な知識を身につける。 対象となる組織の健康（正常）像を認識し、歯科衛生士が歯や歯周組織の疾患を予防するために行う、予防的歯石除去法、う蝕予防処置法、う蝕活動性試験などの基礎知識について、総合的に学習する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を評点とする。ただし、授業内に実施する小テストやホームワークの内容と提出状況、授業態度を加味する場合がある。
１０．受講上の注意	授業で習得した内容は必ず復習し、歯科予防処置実習に活かすこと。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ教本「第2版　歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編　総論 1章 歯科予防処置論の概要	歯科予防処置序論 口腔組織の名称と歯牙名称 歯科予防処置の位置づけ
2		
3	Ⅱ編 歯科予防処置の基礎知識 １章 口腔の基礎知識	口腔・口腔周囲の構造、歯面の名称。
4		歯周組織図 対象となる組織の健康（正常）像
5	Ⅱ編 2章 う蝕と歯周病の基礎知識	１．口腔内の付着物・沈着物
6		２．う蝕とは、３．歯周病とは（病的変化を招く因子と組織の病的変化）
7	Ⅲ編 歯科予防処置各論 2章 歯科衛生ｱｾｽﾒﾝﾄとしての情報収集	対象者からの情報収集 口腔の器質的問題の把握 １．口腔内観察　２．検査項目 ３．口腔機能の把握　４．分析のためのデータ
8		
9		
10	Ⅲ編 歯科予防処置各論 3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	スケーリング・ルートプレーニング（歯石除去に用いられる器材） １．手用スケーラー：手用スケーラーの構成、特徴、使用目的 シックルタイプスケーラー、キュレットの基本操作。術者ポジション
11		
12		術後点検 歯面研磨・歯面清掃 １．歯面研磨（ポリッシング）、２．PTC,PMTC、３．歯面清掃器
13		術後の洗浄（ポケットイリゲーション）、器具の後始末
14		シャープニング スケーリング時の感染予防
15	総括	前期まとめ
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科予防処置論Ⅱ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等22年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年・後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	柴田 佐智子
７．授業形式	講義
８．授業の目標	う蝕の性質を理解し、う蝕予防処置法の種類や特異性を学び、歯科衛生業務として理解を深める。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	講義中のノートや配布資料は各自生理整頓して保管すること。
１１．教科書	・歯科衛生学シリーズ教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」： 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版 ・「歯科衛生士のための齲蝕予防処置 第2版」：医歯薬出版
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	予防的歯石除去法 ＜スケーリング実践における注意事項＞ 資料配布	偶発事故の予防とその対策 ①スケーリング時の感染予防とその対策 ②スケーリング器具による軟組織の損傷
2		偶発事故の予防とその対策 ③薬物による事故 ④脳貧血
3	Ⅲ編　3章 う蝕予防処置法 ＜歯科衛生介入としての歯科予防処置＞	１．う蝕予防処置法 ①う蝕予防処置法とは ②う蝕の予防法と種類 ２．小窩裂溝塡塞法（フィッシャーシーラント） ・種類、術式、注意事項 ・う蝕抑制効果
4		２．小窩裂溝塡塞法（フィッシャーシーラント） ・器具・薬剤の取り扱いと管理方法 ・処置後の注意・指導 ・臨床における注意事項
5		３．フッ化物の応用 ・局所塗布に用いられるフッ化物とその特徴 ・フッ化物塗布時の安全性の配慮 フッ化物の毒性と急性中毒への対応 ・フッ化物のう蝕抑制機構
6		
7		
8		３．フッ化物の応用 ・悪心嘔吐発現フッ化物量の算出法
9		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科予防処置論Ⅲ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等22年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第2学年・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	柴田 佐智子
７．授業形式	講義
８．授業の目標	う蝕や歯周病の原因と検査法・予防処置法を理解し、臨地実習に向けて基礎学力を習熟する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	歯科予防処置実習Ⅱや臨地実習では歯周疾患治療法も実践されるため、臨床応用に向けた歯科予防処置や歯周病学の復習を行う。
１１．教科書	・歯科衛生学シリーズ教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」： 全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版 ・「歯科衛生士のための齲蝕予防処置 第2版」：医歯薬出版
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅲ編　3章 ＜歯科衛生介入としての歯科予防処置＞	パワー（機械的）スケーラー １．超音波スケーラー ①超音波とは(原理、構成、特徴、注意事項）、②操作方法 ③注意事項と臨床応用（感染予防対策、イリゲーション）
2		２．エアスケーラー、歯面清掃器
3	Ⅲ編　3章 ＜歯科衛生介入としての歯科予防処置＞	フッ化物洗口法 ①特徴、②対象者、応用時期、③方法：家庭・集団での洗口方法 ④洗口方法の種類と使用薬剤、⑤他のフッ化物応用の組み合わせ、 ⑦洗口法の安全性
4		フッ化物塗布の安全性（応用編） ①フッ化物濃度、②悪心・嘔吐発現フッ化物の算出法 ③急性中毒症状が生じたときの処置、④急性中毒発現時の救急処置 〇練習問題
5		
6	Ⅲ編　2章 ＜歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理＞	う蝕に関する検査（カリエスリスク・テスト） ①う蝕活動性試験の目的、②う蝕発病因子、③分類法、④評価 う蝕リスクの評価：レーダーチャート
7	総括	まとめ：歯科衛生士が行うことのできる歯周疾患の検査
8		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科予防処置論Ⅳ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等22年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第3学年・後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	柴田 佐智子
７．授業形式	講義
８．授業の目標	臨床実習で学んだ手技や知識の確認と歯科予防処置の総復習
９．成績評価	期末試験の結果で評価する。
１０．受講上の注意	総括となるため、座学や臨地実習で学んだことを復習し授業に臨むこと
１１．教科書	・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」： 全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版 ・「歯科衛生士のための齲蝕予防処置 第2版」：医歯薬出版
１２．副読本	・「歯周病学 第2版」：医歯薬出版 ・「保健生態学 第3版」：医歯薬出版
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	最新歯科予防処置論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ編	歯科予防処置総括 （う蝕と歯周病、歯科衛生介入方法：歯周病予防処置、う蝕予防処置、臨床実習復習）歯周疾患と口腔内所見
2	最新歯科予防処置論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ編	歯科予防処置総括 （う蝕と歯周病、歯科衛生介入方法：歯周病予防処置、う蝕予防処置、臨床実習復習）歯周疾患検査の実際
3	最新歯科予防処置論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ編	歯科予防処置総括 （う蝕と歯周病、歯科衛生介入方法、歯周病予防処置、う蝕予防処置、臨床実習復習）各種スケーラーの特徴
4	最新歯科予防処置論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ編	歯科予防処置総括 （う蝕と歯周病、歯科衛生介入方法：歯周病予防処置、う蝕予防処置、臨床実習復習）スケーリング後のメインテナンス
5	最新歯科予防処置論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ編	歯科予防処置総括 （う蝕と歯周病、歯科衛生介入方法：歯周病予防処置、う蝕予防処置、臨床実習復習）う蝕活動性試験と患者管理への応用法
6	最新歯科予防処置論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ編	歯科予防処置総括 （う蝕と歯周病、歯科衛生介入方法：歯周病予防処置、う蝕予防処置、臨床実習復習）偶発事故の予防とその対策
7	最新歯科予防処置論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ編	歯科予防処置総括 （う蝕と歯周病、歯科衛生介入方法：歯周病予防処置、う蝕予防処置、臨床実習復習）総復習
8	最新歯科予防処置論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ編	歯科予防処置総括 （う蝕と歯周病、歯科衛生介入方法：歯周病予防処置、う蝕予防処置、臨床実習復習）総復習
9		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科予防処置実習Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等16年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年　前期・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	松本　美香
７．授業形式	マネキン実習を基本とした基礎実習
８．授業の目標	歯や口腔への形態を覚え手用器具との関係を理解する。 基礎実習・マネキン実習にて基本手技を習得する
９．成績評価	平常点(出席、実習態度、衛生検査）と学期末に行う期末試験により評価とする。また、提出物により加味、評価をする。
１０．受講上の注意	実習時は身支度をきちんと整え、必要器材を忘れないこと。 配布資料などは整理し保管・管理を行う。事前記入事項は必ず記入
１１．教科書	「歯科衛生学シリーズ　歯科予防処置論・歯科保健指導論」
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	3章：歯科衛生介入としての歯科予防処置 スケーリング	器材の配布、スケーラー基礎、基本姿勢、固定、把持法
2		石膏棒を使用した基礎運動
3		マネキン操作MA,HRマーキング、３つの基本運動の検印
4		マネキン顎模型で探針操作（歯牙、硬貨）、シックルタイプスケーラーの操作
5		顎模型上で３つの基礎運動練習
6		顎模型上で３つの基礎運動確認
7		部位別操作法　　①33～43番歯
8	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科予防処置実習Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等16年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年　　前期・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	松本　美香
７．授業形式	実習室での説明、演習、基礎実習おやび基礎実習室での相互実習
８．授業の目標	齲蝕予防処置法の種類、歯周組織検査の方法・必要性を学び、マネキン基礎実習や相互実習を行う
９．成績評価	期末試験に平常点（出席、衛生検査、授業態度等）を加味して評価する
１０．受講上の注意	相互実習が中心となるので、基礎実習で身に付けた技術を復習し、授業に臨むこと
１１．教科書	「歯科衛生学シリーズ　歯科予防処置論・歯科保健指導論」　全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法　第2版」　医歯薬出版
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	・歯面研磨	歯面研磨 1）歯面研磨器具、研磨剤について
2	・歯面研磨	2)歯面研磨　相互実習での基本操作1回目
3	・歯面研磨	3)歯面研磨　相互実習での基本操作2回目
4	・齲蝕予防処置法 （小窩裂溝填塞）	小窩裂溝填塞 1）基礎実習　　ラバーダム防湿下小窩裂溝填塞をマネキンで行う
5	・齲蝕予防処置法 （小窩裂溝填塞）	2）小窩裂溝填塞　相互実習1回目
6	・齲蝕予防処置法 （小窩裂溝填塞）	3）小窩裂溝填塞　相互実習2回目
7	・フッ化物局所法	フッ化物局所応用法 1）フッ化物の種類、術式、フッ化物塗布後の指示　2）フッ化物塗布時の安全性の配慮
8		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科予防処置実習Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等4年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　　１部　　２部
４．対象学年・対象学期	第２学年　前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	高野　奈美
７．授業形式	実習室でのマネキン実習及び相互実習
８．授業の目標	歯・口腔の状況の把握及び歯科予防処置の基礎的技術を修得する。
９．成績評価	学期末に行う定期試験と平常点（出席、実習態度）及び検印表の達成度の判定、実習書の提出状況により評価とする。
１０．受講上の注意	実習時は身支度を整え、必要器材を忘れない。実習書の事前記入事項は忘れずに記入、事前練習を行い望むこと
１１．教科書	歯科衛生士学シリーズ　歯科予防処置・歯科保健指導
１２．副読本	歯科衛生士学シリーズ　歯周病学
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅲ編　歯科予防処置・歯科保健指導各論 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	シックルタイプスケーラーの基礎実習の復習
2		シックルタイプスケーラー相互実習・歯面研磨①～⑥ 13～23番歯、14～17番歯、33～43番歯、44～47番歯、24～27番歯、24～27番歯、34～37番歯を 部位別操作法で全8コマの中で行う
3		
4		
5		
6		
7		
8		グレーシータイプキュレット操作法・基礎訓練（顎模型）
9		グレーシータイプキュレット操作法・基礎練習①33～43②13～23番歯（顎模型・人工歯石除去）
10		
11		グレーシータイプキュレット操作法・基礎練習③14～17④44～47番歯（顎模型・人工歯石除去）
12		
13		グレーシータイプキュレット操作法・基礎練習⑤24～27⑥34～37番歯（顎模型・人工歯石除去）
14		
15		シャープニング
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科予防処置実習Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等4年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第2学年・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	高野　奈美
７．授業形式	１階実習室で相互実習
８．授業の目標	患者の情報収集と情報伝達方法を習熟するとともに各実習ごとの手技の習熟
９．成績評価	期末試験の成績と平常点（出席・実習態度・実習書提出状況・身だしなみ）と実技試験を総合的に勘案して評価とする。
１０．受講上の注意	授業前に流れの把握と患者情報を必ず確認する。実習書の復習。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
１２．副読本	歯科衛生学シリーズ「歯周病学」
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	手用スケーラーでの相互実習	鋭匙型スケーラーを用いた歯石除去 鋭匙型スケーラーを用いてマネキン実習で習得したことを、患者、補助者、術者を通した鋭匙型スケーラーの操作を相互実習で確認し、適切なルートプレーニングを学ぶ 相互実習：部位別操作法 問診、現症、診査、スケーリング・ルートプレーニング、歯面研磨 1）33～43番歯　2）13～23番歯　3）44～47番歯 4）14～17番歯　5）34～37番歯　6）24～27番歯
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10	実技試験周知	後期の実習内容総復習（臨地実習へ向けてこれまで履修してきた内容を確認する）
11	実技試験周知	
12	実技試験	実技試験
13	実技試験	実技試験
14	口腔内観察 （フッ化物局所応用法 歯周組織検査）	患者指導管理（相互実習） ・患者とのコミュニケーションを図るためモチベーション用資料を採取し、患者に情報提供・管理すること主要３科目の１部門を完成させる。
15		
16		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科保健指導論Ⅰ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等17年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	下山田　真弓
７．授業形式	講義
８．授業の目標	歯科衛生士の主要業務である歯科保健指導の意義・目的を正しく理解し、歯科保健指導の変容へとつなぐ、観察力・対象把握力・伝達の技術力を身につけるための基礎知識を修得する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	教科書持参・実習時は指示されたものを持参すること。
１１．教科書	歯科衛生シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編１章歯科保健指導概要	①歯科保健指導の定義、考え方、法的な位置づけ　②口腔の機能 ③摂食嚥下の仕組み
2	Ⅰ編3章食生活指導のための基礎知識	①国民の健康と栄養の状況、②食品とう蝕誘発性
3	Ⅲ編４章歯科衛生介入のための歯科保健指導	口腔清掃方法　①ブラッシング　②その他の清掃方法
4		口腔清掃方法　①ブラッシング　②その他の清掃方法
5	Ⅲ編２章歯科衛生アセスメントのための除法収集と情報処理	歯面の付着物　①プラーク（歯垢）、歯垢染色法・口腔清掃
6	Ⅰ編１章歯科保健指導概要Ⅱ編４章歯保健行動支援のための基礎知識	①健康の概念　②行動変容の要素とそのステップ
7	Ⅲ編１章歯科衛生過程２章歯科衛生アセスメント	①歯科衛生アセスメント
8		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科保健指導論Ⅱ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等17年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第２学年・前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	下山田　真弓
７．授業形式	講義・実習
８．授業の目標	歯科衛生士の主要業務である歯科保健指導の意義・目的を正しく理解し、歯科保健指導の変容へとつなぐ、情報を収集し適切な指導の基礎となる、観察・対象把握力を身につける
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	教科書持参・実習時は指示されたものを持参すること。
１１．教科書	歯科衛生シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
１２．副読本	歯科衛生学シリーズは・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み１ 歯科保健生態学
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅳ編 対象別の歯科衛生士介入	①妊産婦期
2		②乳児期
3		③幼児期
4		④学齢期
5		⑤青年期
6		⑥成人期　　⑦老年期
7	Ⅴ編：地域保健活動における健康教育	地域歯科保健活動
8	2章：配慮を要する者への歯科衛生介入	①要介護高齢者
9	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科保健指導論Ⅲ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等17年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第２学年　後期
５．単位数	２単位
６．担当講師	下山田　真弓
７．授業形式	講義
８．授業の目標	歯科衛生士の主要業務である歯科保健指導の意義・目的を正しく理解し、歯科保健指導の変容へとつなぐ、観察力・対象把握力・伝達の技術力を身につける。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	教科書持参・実習時は指示されたものを持参すること。
１１．教科書	歯科衛生シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
１２．副読本	歯科衛生シリーズ　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み１ 「保健生態学」
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	4章歯科衛生介入のための歯科保健指導	口腔清掃方法　１）ブラッシング（電動歯ブラシ）
2		口腔清掃方法　２）歯磨剤、洗口剤
3	Ⅲ編２章歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理
4		
5	Ⅲ編１章歯科衛生過程の進め方	症例検討法実習　症例
6		症例検討法実習　症例
7		症例検討法実習　症例
8	4章歯科衛生介入のための歯科保健指導	口腔清掃方法　①ブラッシング　②その他の清掃方法
9	Ⅲ編２章歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理	分析のためのデータ
10		ブラッシング指導　（相互実習）
11		ブラッシング指導　（相互実習）
12	Ⅳ編　対象別の歯科衛生介入	配慮を要する者への歯科衛生介入
13	媒体発表	１部２部　紙芝居発表　１人５分
14		１部２部　紙芝居発表　１人5分
15		１部２部　紙芝居発表　１人5分
16		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科保健指導論Ⅳ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等4年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第３学年・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	高野　奈美
７．授業形式	講義
８．授業の目標	歯科保健指導における総合的な基礎知識を復習することで国家試験に対応できる力を習熟する
９．成績評価	期末試験の結果を基本とし評価する
１０．受講上の注意	歯科保健指導の総復習となる為、1.2年生座学や実習で学んだことを確認して授業に臨む
１１．教科書	①保健生態学　②歯科予防処置・歯科保健指導論
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	1編　1章 歯科保健指導の概要	健康日本２１・健康概念・予防レベル
2	3編　4章 ③　生活習慣指導 5編　1章ライフステージに対応した歯科衛生介入	リスクファクター（糖尿病）・健康概念モデル
3		ライフステージ（妊産婦・乳幼児・学齢）と学校歯科検診
4		ライフステージ（学齢・青年・成人）
5		ライフステージ（老年）口臭・喫煙・ストレスマネジメント
6	3編　4章 ①口腔衛生管理に関わる指導 5編　地域歯科保健活動	対象別健康教育指導・保健活動・口腔清掃指導②
7	3編　3章 歯科衛生アセスメント	口腔機能問題の把握（分析のためのデーター）リスク検査
8	総論	総括テスト
9		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	栄養指導　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等16年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1・2部
４．対象学年・対象学期	第3学年　後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	松本　美香
７．授業形式	講義
８．授業の目標	歯科診療、保健指導を行う上で食生活上の改善指導をする際には化学的に指導ができるようになること
９．成績評価	期末試験結果
１０．受講上の注意	不定期に確認試験を行う
１１．教科書	歯科衛生士リーズ　人体の構造と機能2　栄養と代謝
１２．副読本	歯科衛生士教本　保健生態学・歯科保健指導論
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅲ編　栄養の基礎	2章　食事摂取基準　①食物のエネルギー②基礎代謝③日本人の食事摂取基準
2		3章　栄養素の働き　①糖質の栄養的意味②タンパク質の栄養的意味
3		③脂質の栄養的意味④ビタミンの栄養的意味
4		⑤ミネラルの栄養的意味⑥水の栄養的意味⑦食物繊維の栄養的意味
5	Ⅳ編　食生活と食品	1章　食生活と健康　①国民の健康と栄養の現状　②望ましい食生活
6		③ライフステージ別の栄養と調理
7		2章　食べ物と健康　①食品の成分と分類　②食べ物の物性
8		まとめ　後期確認試験
9		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	高齢者・障害者歯科学Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等10年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第３学年　前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	高津　寿夫（高齢者歯科；１部）、　佐久間　真紗美（障害者歯科）、 大沼　英子（高齢者歯科；２部）
７．授業形式	講義。基本的には教科書に従い、映像機器や白板を使って講義する。また内容的に不足と思われる事柄については参考プリントを配布し説明する。
８．授業の目標	わが国では今、超高齢社会を迎え、社会のあらゆる分野で対応が急がれている。また高齢者から小児に至るまで幅広い年齢層にわたって障害者といわれる人々が生活している。歯科医療関係者にとっても、これらの人々の口腔健康の改善、維持、増進をはかることは大きな社会的使命である。本授業では両者を有機的に結びつけつつ講義する。即ち、高齢者歯科学では歯科衛生士の視点から高齢者の位置付け、身体的・精神心理的特徴、社会的問題等につき説明し、それらを踏まえて歯科治療に必要な留意事項ならびに心と体にどう接するかなどを講義する。障害者歯科学では先ず障害の概念と障害者の身体的・精神心理的特徴と現況、障害の種類と歯科的特徴などを概説し、それらを踏まえて歯科衛生士にとって必要な歯科診療と歯科診療補助に関する留意事項を講義する。なお、その到達目標としては基本的な事柄は全員が理解できるようにし、詳細で深い内容の事柄については、興味をもって自らが学習意欲を示し、かつ理解を助成させ得る講義となるように努める。
９．成績評価	期末試験の結果で評価する。
１０．受講上の注意	板書された説明、追加事項は講義ノートや配布プリントあるいは教科書余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用出来るように努める。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　高齢者歯科学（第１版）著者：植田　耕一郎ほか、医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ　障害者歯科学（第１版）著者：向井　美恵ほか、医歯薬出版
１２．副読本	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション（第2版）編集代表：植田耕一郎、医歯薬出版
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	（障害者歯科） 1章	1章　障害の概念 ①歯科医療におけるスペシャルニーズ　②障害の分類 ③生活機能に特別な支援を必要とする人のQOL ④ノーマライゼーションとバリアフリー ⑤スペシャルにニーズの発生とその受容 ⑥障害のある人と医療・福祉制度の仕組み
2	（障害者歯科） 2章	2章　歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ①精神発達症群 ②運動障害（神経・筋系疾患）　③感覚障害 ④音声言語障害　⑤精神および行動の障害 ⑥その他-障害のある人への虐待
3	（障害者歯科） 3章	3章　障害者の歯科医療と行動調整 ①コミュニケーションの方法 ②行動療法（行動変容法） ③体動のコントロール ④薬物的行動調整法

4	（障害者歯科） 4章	4章　健康支援と口腔衛生管理 ①障害者本人や介助者が行う口腔のケアへの支援 ②口腔健康管理 ③特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理
5	（障害者歯科） 5章	5章　リスク評価と安全管理 ①障害者歯科におけるリスク評価 ②障害別のリスクと対応 ③医療安全管理体制 ④感染制御体制
6	（高齢者歯科） 序章、Ⅰ編　１章、２章	序章、高齢者歯科学と歯科衛生士の役割　①はじめに、②「口腔ケア」から「口腔健康管理」へ Ⅰ編　高齢者をとりまく社会と環境 １章、高齢社会と健康　①人口の高齢化、②総人口・少子化・高齢者の人口・高齢化率、③寿命と死因、④歯科疾患実態調査からみた高齢者の特性、⑤高齢者の健康 ２章、高齢者の健康にかかわる法制度　①老人保健・医療・福祉対策の経緯
7	（高齢者歯科） Ⅰ編　２章	②介護保険制度、③歯科衛生士が関わる介護保険
8	（障害者歯科） 6章	6章　摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割 ①摂食・嚥下リハビリテーションとは　②摂食・嚥下障害と口腔管理 ③摂食・嚥下障害と栄養管理　④摂食・嚥下障害の評価法　　⑤摂食機能療法 ⑥小児期の摂食・嚥下障害への対処法 ⑦成人期・老年期の摂食・嚥下障害の評価と対処法 ⑧摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割と他職種連携
9	（高齢者歯科） Ⅰ編　３章、４章	３章、地域包括ケアシステム　①地域包括ケアシステムとは、②地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割、③地域包括ケアシステムと歯科衛生士の関わり、④地域包括ケアシステムの広がり ４章、高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴、①高齢者の居住場所を規定する要件、②高齢者の居住する場所と設備の特徴
10	（高齢者歯科） Ⅱ編　１章、２章	Ⅱ編　加齢による身体的・精神的変化と疾患 1章、加齢に伴う身体的機能の変化　①全身的な変化、②口腔・咽頭領域の加齢変化 2章、高齢者の精神・心理的変化　①老化による心理的変化、②老化以外の心理的変化　うつ・せん妄、③高齢者の精神・心理的変化をふまえたコミュニケーションとは
11	（障害者歯科） 7章・8章	7章　地域における障害者歯科 ①障害者歯科と地域医療連携　②障害者歯科と関連職種 ③保健・医療・福祉のネットワーク　④一次医療機関における障害者歯科 ⑤二次医療機関における障害者歯科　⑥三次医療における障害者歯科 8章　障害者歯科における歯科衛生士過程 脳性麻痺（アテトーゼ型）患者・ダウン症候群患者
12	（高齢者歯科） Ⅱ編　３章	３章、高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患　①歯科治療時に注意すべき全身疾患、②生活機能を低下させる全身疾患―（１）
13	（高齢者歯科） Ⅱ編　３章	②生活機能を低下させる全身疾患―（２） ③高齢者に特有な口腔の疾患・症状
14	（障害者歯科）	授業内容に関する補充および復習とまとめ
15	（高齢者歯科） Ⅲ編　１章、２章	3編　高齢者の状態の把握 1章、高齢者の生活機能の評価　①生活・ADL・QOL評価、②認知機能の評価 2章、高齢者歯科と臨床検査　①バイタルサイン、②血液検査
16	（高齢者歯科） Ⅲ編　３章、４章	３章、高齢者の栄養状態　①低栄養になりやすい高齢者の栄養評価、②経口摂取の代償による水分・栄養摂取法 4章、高齢者の薬剤服用　①高齢者の薬物動態に影響を与える因子、②高齢者の薬物感受性、③薬物の相互作用、④服薬管理、⑤薬物療法上の注意点、⑥頻用される代表的な薬物の口腔や生活機能に関する副作用、⑦高齢・要介護者の服薬時の注意点
17	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	高齢者歯科・障害者歯科学Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等7年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第３学年　後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	千葉　光紗
７．授業形式	講義を主体とするが、知識と実際の技能とが有機的に結びつくように適宜に実習等を取り入れて構成した。
８．授業の目標	前期科目、高齢者・障害者歯科学Ⅰにおいては、高齢者や障害をもつ人々の身体的・精神心理的特性や社会的問題などにつき説明した。それらを踏まえて歯科衛生士として、これらの人々の心と体にいかに接するかなどの基本を講義した。本科目Ⅱでは高齢者・障害者が抱える問題は多岐多様にわたることを改めて重視し、健康長寿を支援する観点から学習対象分野をさらに広げるとともに、口腔ケアや摂食・嚥下等の必修事項については内容をより深く学ぶこととした。
９．成績評価	期末試験の結果で評価する。
１０．受講上の注意	板書された説明、追加事項は講義ノートや配布プリントあるいは教科書余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用出来るように努める。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　高齢者歯科学（第１版） 著者：植田　耕一郎ほか、医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ　障害者歯科学（第１版） 著者：向井　美恵ほか、医歯薬出版 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション（第2版） 編集：植田　耕一郎ほか、医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	（高齢者歯科学） Ⅳ編　1章、３章	Ⅳ編　口腔健康管理 1章、高齢者の口腔健康管理のための評価　１．口腔健康管理における口腔アセスメント（口腔評価）、２．口腔アセスメント（OHAT） ３章　周術期・急性期の高齢者への口腔健康管理　①周術期における口腔健康管理　１．背景と目的、２．周術期の口腔管理を行うための仕組み ②急性期における口腔健康管理　１．急性期の口腔健康管理の目的、２．急性期の口腔健康管理の基本
2	(障害者歯科) ４章	４章　健康支援と口腔衛生管理 ①障害者本人や介助者が行う口腔のケアへの支援 １-介助者が行う口腔のケア　2-口腔のケアの支援に必要な情報 ②専門的口腔ケア　1-専門的口腔ケアとは 2-専門的口腔ケアの分類　３-実施の際の障害別の特徴と注意事項 ③特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理 1-呼吸器疾患　2-循環器疾患　3-神経・筋系疾患　4-精神疾患
3	(高齢者歯科学) Ⅳ編　5章	5章　慢性期の高齢者への口腔健康管理 １．慢性期の高齢者への対応、２．慢性期の高齢者の特徴、３．慢性期の口腔健康管理の基本、４．口腔咽頭吸引の基本

4	（障害者歯科） ５章	５章　リスク評価と安全管理 ①障害者歯科におけるリスク評価 1-リスク評価の必要性　2-発達の評価　3-身体機能の評価 4-行動の評価 ②肢体不自由　1-肢体不自由　2-知的障害や自閉性障害 3-合併症　4-重度重複障害 ③医療安全管理体制
5	（高齢者歯科学） Ｖ編　１章	Ｖ編　摂食・嚥下リハビリテーション １章　摂食嚥下の評価　①摂食嚥下のモデル　②摂食嚥下障害患者の評価 １．診察、２．スクリーニング、３．嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査 嚥下超音波検査
6	（障害者歯科） ６章・７章	６章　摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割 1-摂食嚥下リハビリテーションとは 2-摂食嚥下障害と口腔管理　3-摂食嚥下障害と栄養管理 4-摂食嚥下障害の評価法　5-摂食機能療法 6-小児期の摂食嚥下障害への対応　7-成人期・老年期　8-多職種連携 ７章　地域における障害者歯科 1-障害者歯科と地域連携　2-障害者歯科と関連職種
7	（高齢者歯科学） Ｖ編　２章	２章　嚥下訓練と対応　①誤嚥と誤嚥性肺炎ー誤嚥性肺炎発症のバランス ②嚥下訓練　１．間接訓練、２．直接訓練　③食事支援 ④誤嚥、窒息の対応法　⑤補綴的対応　１．舌接触補助床（PAP）、２．軟口蓋挙上装着（PLP）、３．義歯
8	（障害者歯科） ８章	８章　障害者歯科における歯科衛生士過程 ・脳性麻痺・ダウン症・フレイル・サルコペニア 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 摂食嚥下訓練（間接訓練・直接訓練の実際）
9		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科診療補助論Ⅰ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等13年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部　　2部
４．対象学年・対象学期	1学年　　前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	今泉　正子
７．授業形式	講義
８．授業の目標	歯科診療補助を行うにあたり、その内容と流れを具体的に理解する事が出来る。 主要材料の取り扱いとその特徴を理解する事が出来る。 実習を行う為の基礎知識を習得する事が出来る。
９．成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テストなどを総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	・教科書を持参。 （「歯科診療補助論」は毎回使用。歯科材料・歯科機器もあると尚よい） ・また配布された資料を必要に応じ準備する。 ・タブレットを使用しての受講も可 ・講義により修得した内容は必ず復習をし、診療補助実習に活かすこと。 ・授業開始前に前回の授業の範囲の確認試験を行うので復習をして授業に臨むこと。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　「歯科診療補助論」 歯科衛生学シリーズ　「歯科材料」 歯科衛生学シリーズ　「歯科機器」 ※必要な教科書は予め指示するが、毎回あると尚良い。
１２．副読本	「歯科衛生学総論」　「歯科臨床概論」　その他
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	1章 歯科診療補助の概要	・歯科衛生士法における歯科診療補助の位置付け　・業務と他の医療職種
2	2章 医療安全と感染予防	・医療安全
3	2章 医療安全と感染予防	・感染予防
4	2章 医療安全と感染予防	・感染予防　（手洗い）（防護具）
5	2章 医療安全と感染予防	・感染予防　（滅菌、消毒）
6	2章 医療安全と感染予防	・感染予防　（医療廃棄物）
7	3章 歯科診療における基礎知識	・歯科診療室の基礎知識
8	4章 歯科診療補助における基礎知識	・共同動作　（受け渡し）
9	4章 歯科診療補助における基礎知識	・共同動作　（ポジショニング）
10	4章 歯科診療補助における基礎知識	・バキュームテクニック
11	4章 歯科診療補助における基礎知識	・ラバーダム防湿
12	4章 歯科診療補助における基礎知識	・ラバーダム防湿　（手順）
13	4章 歯科診療補助における基礎知識	・歯肉圧排
14	3章 歯科診療における基礎知識	・薬品、歯科材料の管理
15	「歯科材料」1章2章	・歯科材料と歯科衛生士　　前期総括
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科診療補助論Ⅱ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等13年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部 2部
４．対象学年・対象学期	1学年　　後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	今泉　正子
７．授業形式	講義
８．授業の目標	歯科診療補助を行うにあたり、その内容と流れを具体的に理解する事が出来る。 主要材料の取り扱いとその特徴を理解する事が出来る。 実習を行う為の基礎知識を習得する事が出来る。
９．成績評価	期末試験を基本とする。また課題の提出・小テストなどを総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	・教科書を持参。（歯科衛生学シリーズ　「歯科診療補助論」は毎回使用） ・また配布された資料を必要に応じ準備する。 ・講義により修得した内容は必ず復習をし、診療補助実習に生かすこと。 ・授業開始前に、前回の授業の範囲の確認試験を行うので復習をして授業に臨むこと。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　「歯科診療補助論」 歯科衛生学シリーズ　「歯科材料」 歯科衛生学シリーズ　「歯科機器」 必要な教科書は予め指示するが、毎回あると尚良い。
１２．副読本	最新「歯科衛生学総論」　「歯科臨床概論」　その他
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	5章 歯科診療で扱う歯科材料	印象材　（印象の基礎知識・アルジネート印象材）
2	5章 歯科診療で扱う歯科材料	印象材　（寒天印象）
3	5章 歯科診療で扱う歯科材料	印象材　（ゴム質印象材）
4	5章 歯科診療で扱う歯科材料	印象材　（その他の印象材）　・模型材料
5	5章 歯科診療で扱う歯科材料	合着材と接着剤　（合着材・接着剤の基礎知識）
6	5章 歯科診療で扱う歯科材料	合着材と接着剤　（各材料）
7	5章 歯科診療で扱う歯科材料	合着材と接着剤　（各材料）
8	5章 歯科診療で扱う歯科材料	合着材と接着剤　・　仮封材の基礎
9		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科診療補助論Ⅲ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等13年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部　2部
４．対象学年・対象学期	2学年　　前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	今泉　正子
７．授業形式	講義
８．授業の目標	歯科診療補助を行うにあたり、その内容と流れを具体的に理解する事が出来る。 主要材料の取り扱いとその特徴を理解する事が出来る。 実習を行う為の基礎知識を習得する事が出来る。
９．成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テストなどを総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	・教科書を持参。（歯科衛生学シリーズ　「歯科診療補助論」は毎回使用） ・また配布された資料を必要に応じ準備する。 ・講義により修得した内容は必ず復習をし、診療補助実習に活かすこと。 ・授業開始前に、前回の授業の範囲の確認試験を行うので復習をして授業に臨むこと。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」 必要な教科書は予め指示するが、毎回あると尚良い。
１２．副読本	「歯科衛生学総論」　「歯科臨床概論」　その他
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-仮封・仮着の補助
2	Ⅰ編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-仮封・仮着の補助
3	Ⅰ編5章 歯科診療で扱う歯科材料	4-成形歯冠修復の補助
4	Ⅰ編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-成形歯冠修復の補助
5	Ⅰ編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-成形歯冠修復の補助
6	Ⅰ編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-成形歯冠修復の補助　　6-ワックス
7	Ⅱ編2章3章 周術期と訪問診療	周術期のおける歯科診療補助、歯科訪問診療における対応等　　前期総括
8	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科診療補助論Ⅳ　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第3学年　後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	今泉　正子　・　佐久間　真紗美
７．授業形式	講義
８．授業の目標	歯科専門器械・器具・材料の名称や用途・使用上の注意・準備方法について習熟する。 1学年、2学年、臨地実習で得た知識の総復習。
９．成績評価	期末試験を基本として評価していく。
１０．受講上の注意	復習をすること。 配布されたプリントは整理整頓し、各自保管しておくこと。
１１．教科書	最新　歯科衛生士教本　「歯科診療補助論」 最新　歯科衛生士教本　「歯科材料」 最新　歯科衛生士教本　「歯科機器」 必要な教科書は予め指示するが、毎回あると尚良い。
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	1章～4章 （5章全身疾患と診療補助）	診療補助総論　（材料と器材）（各療法と診療補助）（全身疾患と診療補助）
2	1章～4章 （5章全身疾患と診療補助）	診療補助総論　（材料と器材）（各療法と診療補助）（全身疾患と診療補助）
3	1章～4章 （5章全身疾患と診療補助）	診療補助総論　（材料と器材）（各療法と診療補助）（全身疾患と診療補助）
4	1章～4章 （5章全身疾患と診療補助）	診療補助総論　（材料と器材）（各療法と診療補助）（全身疾患と診療補助）
5	1章～4章 （5章全身疾患と診療補助）	診療補助総論　（材料と器材）（各療法と診療補助）（全身疾患と診療補助）
6	1章～4章 （5章全身疾患と診療補助）	診療補助総論　（材料と器材）（各療法と診療補助）（全身疾患と診療補助）
7	1章～4章 （5章全身疾患と診療補助）	診療補助総論　（材料と器材）（各療法と診療補助）（全身疾患と診療補助）
8	1章～4章 （5章全身疾患と診療補助）	診療補助総論　（材料と器材）（各療法と診療補助）（全身疾患と診療補助）
9		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科診療補助実習Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等10年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年　前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	佐久間　真紗美
７．授業形式	マネキン実習、相互実習を主体とし、実習志説、講義を組み込んで行う。
８．授業の目標	歯科診療の基本である歯科診療室、器具に関する基礎知識をはじめ、 感染予防対策および共同動作の基本と方法・手技などについて必要な知識と技術を習得する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とし、授業態度および実習書の提出状況等を総合的に評価する。
１０．受講上の注意	実習開始前には身支度を整え、静かに待機する。必要器材を忘れないこと。 また、実習は常に緊張感を持って取り組まなければいけない。 室内や物品の整理整頓に努め、使用後は各自が責任を持って清掃を行う。 配布資料は順次整理して保管し、適宜活用できるよう工夫すること。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」第2版　　医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」　　医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」　　医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	歯科診療室の 基礎知識	・歯科診療補助とは ・歯科診療室の環境（空調・照明・受付・診療器材・消毒コーナー） ・歯科用ユニット（各部の名称）その他の設備（キャビネット・口腔外バキューム）
2	歯科診療室の 基礎知識	・一般診療器具の名称（基本セットなど）
3	医療安全と感染予防	・手指衛生について・手指消毒　・手指消毒の分類 ・感染を予防するための基本的手法 ・グローブの付け方・外し方
4	基礎実習	・衛生材料実習(綿球作製）衛生材料、知識の整理、実習手順と留意点
5	基礎実習	・衛生材料実習（綿球確認）
6	医療安全と感染予防	・超音波洗浄器の使い方　・消毒滅菌と消毒・洗浄の定義 ・滅菌法（高圧蒸気滅菌器） ・消毒法　・器械・器具の消毒法　・洗浄　（超音波洗浄器）
7	基礎実習	・ブローチ綿栓（拭掃用）実習　・ブローチ綿栓（包摂用）実習 ・マネキン取り扱い説明
8	共同動作の基本	・受け渡し実習・確認 ・器具の取り扱い法 受け渡しの禁忌エリアの把握 ペングリップとパームグリップによる受け渡し方法 小器具等の取り扱い方法　（基礎実習）
9	基礎実習および 共同動作の基本	・拭掃用綿栓（確認）　・患者誘導デモンストレーション
10	共同動作の基本	・患者誘導　・共同動作の概念

11	共同動作相互実習	・患者誘導　・ポジショニング・ライティング実習
12	・共同動作相互実習	・患者誘導　・ポジショニング　・ライティング　・受け渡しの確認
13	・共同動作の基本	・バキュームテクニック実習（模型） バキュームの基本技法　　バキュームの目的　バキューム操作の基本操作 バキューム挿入禁忌部位
14	・共同動作の基本	・バキュームテクニック実習（模型）（歯面研磨）
15	・共同動作相互実習	・バキュームテクニック（相互）各部位のバキュームテクニック
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科診療補助実習Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等10年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年　後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	佐久間　真紗美
７．授業形式	講義・実習
８．授業の目標	歯科専門器械・器具・材料の名称や使用上の注意・取り扱い方法について習熟する
９．成績評価	期末試験により評価する。その際出席状況、授業態度を加味する。
１０．受講上の注意	実習時は実習衣に着替え清潔を心がける。 実習開始前には身支度を整え、静かに待機する。必要器材を忘れないこと。 また、実習は常に緊張感を持って取り組まなければいけない。 室内や物品の整理整頓に努め、使用後は各自が責任を持って清掃を行う。 配布資料は順次整理して保管し、適宜活用できるよう工夫すること。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」　全国歯科衛生教育協議会監修 　著者：合場千佳子ほか　　医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」　全国歯科衛生教育協議会監修 　著者：末瀬一彦ほか　　医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」　全国歯科衛生教育協議会 　著者：末瀬一彦ほか　　医歯薬出版
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．年間講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	・ラバーダム防湿	・ラバーダム防湿の基礎知識および術式一部分練習（マネキン）
2	・ラバーダム防湿	・ラバーダム防湿の基礎知識および術式一部分練習（マネキン）
3	・ラバーダム防湿	・ラバーダム防湿の基礎知識および術式（マネキン・相互実習）多数歯露出法
4	・ラバーダム防湿	・ラバーダム防湿の基礎知識および術式（マネキン・相互実習）１歯露出法
5	・印象材	・アルジネート印象材（練和して、網トレーに盛り上げるまで）
6	・印象材	・アルジネート印象材（マネキンにて印象採得）
7	・印象材	・アルジネート印象材・寒天印象材（マネキンにて連合印象採得）
8	・印象材	・シリコン印象材の取り扱い
9	・印象材	・シリコン印象材の取り扱い（既成トレーを用いて一次印象採得）
10	・印象材	・シリコン印象材の取り扱い（連合印象採得）
11	・印象材	・アルジネート（補助者と術者に分かれて連合印象採得）（受け渡し）
12	・模型用材料	・石膏の取り扱い（有歯顎模型作製実習）
13	・合着材	・グラスアイオノマーセメント（取り扱い・練和・検印）
14	・合着材	・ポリカルボキシレートセメント（取り扱い・練和・検印）
15	・合着材	・リン酸亜鉛セメント（取り扱い・練和）
16		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科診療補助実習Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等7年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第2学年　　前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	千葉　光紗
７．授業形式	講義及び実習室での基礎実習、相互実習
８．授業の目標	・歯科診療の基本である歯科診療室に関する基本知識をはじめ、共同動作の基本と方法などについて必要な知識と技術を習得できる。 ・歯科主要材料の取り扱いを習得する。 ・歯科診療において特別な支援が必要な疾患や障害に対応できる技術を習得する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	・身だしなみを整え、必要な器材や教科書・資料を忘れないで臨むこと。 ・常に整理整頓を心がけ、使用する器材等は責任をもって返却すること。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　「歯科診療補助」 歯科衛生学シリーズ　「歯科材料」 歯科衛生学シリーズ　「歯科機器」
１２．副読本	「保存修復・歯内療法」「口腔外科」「歯科補綴」「歯周病学」等
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	5章　歯科診療で扱う歯科材料	仮封材（水硬性仮封材／サンダラックバーニッシュ）
2	5章　歯科診療で扱う歯科材料	仮封材（テンポラリーストッピング）
3	5章　歯科診療で扱う歯科材料	仮封材（酸化亜鉛ユージノールセメント／仮封用軟質レジン）
4	5章　歯科診療で扱う歯科材料	個人トレー作製（精密印象）
5	5章　歯科診療で扱う歯科材料	個人トレー作製（精密印象）
6	5章　歯科診療で扱う歯科材料	成形歯冠修復材（コンポジットレジン）
7	5章　歯科診療で扱う歯科材料	成形歯冠修復材（充填用グラスアイオノマーセメント）
8	5章　歯科診療で扱う歯科材料	成形歯冠修復材（コンポジットレジン研磨）
9	5章　歯科診療で扱う歯科材料	隔壁法（タッフルマイヤーリテーナー）
10	5章　歯科診療で扱う歯科材料	口腔内撮影
11	5章　歯科診療で扱う歯科材料	口腔内撮影
12	5章　歯科診療で扱う歯科材料	歯肉排除・圧排
13	5章　歯科診療で扱う歯科材料	車椅子・抑制・介護法／暫間被覆冠
14	5章　歯科診療で扱う歯科材料	車椅子・抑制・介護法／暫間被覆冠
15	5章　歯科診療で扱う歯科材料	車椅子・抑制・介護法／暫間被覆冠
16	期末試験	前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科診療補助実習Ⅳ※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等13年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部　2部
４．対象学年・対象学期	第2学年　　後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	今泉　正子
７．授業形式	講義及び実習室での基礎実習、　相互実習
８．授業の目標	・歯科診療の基本である歯科診療室に関する基礎知識をはじめ、感染予防対策および共同動作の基本と方法などについて必要な知識と技術を習得できる。 ・歯科主要材料の取り扱いを習得する。
９．成績評価	期末試験の成績と実技試験を総合的に勘案して評価とする。
１０．受講上の注意	・実習時は身支度を整え、必要な器材や教科書・資料を忘れない事。 ・室内や物品の整理整頓に努め使用後は各自が責任をもって返却を行し、清掃を行う。 ・配布資料は順次整理をして保管をし、適宜活用できるようにする。
１１．教科書	歯科衛生シリーズ　「歯科診療補助論」 歯科衛生シリーズ　「歯科材料」 歯科衛生シリーズ　「歯科機器」 必要な教科書は予め指示するが、毎回あると尚良い。
１２．副読本	他科目教科書　　「保存修復・歯内療法」「口腔外科」「歯科補綴」「歯周病学」等
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	4章 歯科診療における基礎知識	歯周療法器具
2	4章 歯科臨床と診療補助	歯周療法器具と材料の取り扱い
3	4章 歯科臨床と診療補助	口腔外科器具
4	4章 歯科臨床と診療補助	口腔外科器具と材料の取り扱い
5	4章 歯科臨床と診療補助	歯内療法器具
6	4章 歯科臨床と診療補助	歯内療法と材料の取り扱い
7	4章 歯科臨床と診療補助	実技試験周知
8	4章 歯科臨床と診療補助	実技試験　確認練習
9	4章 歯科臨床と診療補助	レントゲン実習　（基礎知識　・　位置づけ）
10	4章 歯科臨床と診療補助	レントゲン実習　（基礎知識　・　位置づけ）
11	5章 歯科診療で扱う歯科材料	アルジネート印象採得（相互）
12	5章 歯科診療で扱う歯科材料	アルジネート印象採得（相互）
13	5章 歯科診療で扱う歯科材料	模型作成（普通石膏）
14	4章 歯科臨床と診療補助	実技試験　（歯科臨床と診療補助）
15	4章 歯科臨床と診療補助	実技試験　（歯科臨床と診療補助）
16		期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	臨地実習Ⅰ　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　　1部・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年　　後期
５．単位数	７単位
６．担当講師	学外：臨地実習施設における指導教員・実習指導者 歯科衛生士科：柴田佐智子、今泉 正子、高野奈美、下山田真弓、佐久間真紗美 松本美香、千葉光紗
７．授業形式	授業は実習形式で行われる。実習の場は、公的に承認を得た当校歯科衛生士科の登録施設であり、次の２種に区分される。すなわち、１つは歯科診療所および病院歯科といった歯科医療機関（臨床実習施設と呼称される）であり、他は保健や福祉、保育などの活動が行われている施設（臨地実習施設と呼称される）である。なお、両種施設における実習時間の配分については、２/３以上は臨床実習施設で行われることとなっている。実際の指導は各施設の公認された指導教員・実習指導者により行われる。実習方法は症例や学生の能力などにより異なるが、次のように区分され、適宜に応用される。即ち、ａ.指導者の直接指導のもとに実習生が主体となって行う“自験”、ｂ.指導者の施術等を介補する“補助”および　ｃ.“見学”である。なお、実習期間中、当科教員が定期的に各施設を巡回し、指導者と意見・情報の交換を行い、もって実習を側面的に支援するシステムを採用している。
８．授業の目標	本授業では医療、保健、福祉等が行われている実践の場において、これまでの講義や基礎実習で修得してきた全ての学科目に関する知識と技能が、互いにつながりのある一体化されたものとなるよう総合的に学習することを目標とする。あわせて社会人としてのマナー、医療人としての倫理とあり方など多くの事柄を少しづつ着実に学びとっていくことも同様に目標とするところである。なお、具体的な到達目標としては卒業直後において、歯科衛生士として人物的にふさわしく、かつ専門職を基本的に実践できる基礎的能力を体得していることとする。授業は上記を踏まえ、９ヵ月間にわたって継続して行われるが、カリキュラム上は２年次後期３ヵ月は臨地実習Ⅰとして、また３年次前期の６ヵ月間は臨地実習Ⅱとして区分して実施される。
９．成績評価	評価は以下に示す項目の成績を所定の基準によって配分し、それらの総合点をもって示す。即ち、対象項目は、１）実習課題の達成度（ａ.症例修了数、ｂ.実習記録作成点）、２）実習施設の主・副指導者による評価、３）当歯科衛生士科実施課題についての成績（Ａ．総合筆記試験、Ｂ．口頭試問）とする。
１０．受講上の注意	臨地実習の意義はきわめて大きく、また深い。一方、そこにおいては実習生に求められている要素も多様であり、また数多い。そこで、目標が円滑に、かつ充分に達成されるよう、順守すべき諸注意点を“臨地実習の心得”として別刷の“臨地実習記録ノート”中に示した。それらの骨子は１．基本的心得、２．服装、身だしなみ、３．実習態度（Ａ．対話・応対に関する事柄、Ｂ．技能学習に関する事柄）より成っている。諸君には折にふれ反復精読のうえ、実習の場に臨むよう希望するところである。
１１．教科書	現用の各科目教科書、医歯薬出版
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	臨床実習　HAND　BOOK、監著：真木　吉信、クインテッセンス出版

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1月 ～ 3月	１．臨床実習 １）各種歯科治療系における診査、診断、治療計画、インフォームドコンセント、治療・処置法、メインテナンス ２）歯科材料の取り扱い ３）業務記録 ４）安全管理 ２．臨地実習 １）母親および乳幼児の歯科保健 ２）保育活動における口腔衛生指導	Ⅰ．実習体制 実習は別に定める日程表に従って行われるが、各実習期間中は、定められた“臨床実習施設”に帰属し、その間、“臨地実習施設”へ定められた日程で出向き実習する。 Ⅱ．実習内容 １．臨床実習施設における実習 保存、補綴、口腔外科ほか各種歯科治療系における内容を学習する。学習事項の詳細は別刷“臨地実習記録ノート”に示すところである。学習に際しては先ず、患者をライフステージ別にとらえつつ全人的に理解することに努める。次いで診査、診断を経て病態を把握し、治療計画の立案に至る過程を学習する。実際の治療や処置およびメインテナンスにおいては、インフォームドコンセントの意義を学び、必要な知識および臨床技法を自験あるいは補助、見学を通じて習得する。また、この間に歯科材料の取り扱い、業務記録法、院内感染予防を含めた安全管理など、に関する知識および技能を習得する。 ２．臨地実習施設における実習 （１）郡山市こども総合支援センターにおいては、地域歯科保健事業に参加し、その具体的活動方法を学び、対象者の特性に応じた口腔健康の保持増進に対する援助ができるよう基礎知識と技能を学習する。 （２）保育所・保育園においては、保育活動に参加することによって先ず園児の日常生活について理解する。また発達段階に応じたコミュニケーションをとることにより対象者にとって必要な援助のあり方を学ぶ。これを踏まえて、口腔衛生指導が適切に実践できるよう基礎的学力、技能の学習に努める。
3/14		臨地実習Ⅰ評価試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	臨地実習Ⅱ　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第３学年　　前期
５．単位数	１３単位
６．担当講師	学外：臨地実習施設における指導教員・実習指導者 歯科衛生士科：柴田佐智子、今泉正子、佐久間真紗美、下山田真弓、松本美香、 高野奈美、千葉光紗
７．授業形式	授業は実習形式で行われる。実習の場は、公的に承認を得た当校歯科衛生士科の登録施設であり、次の２種に区分される。すなわち、１つは歯科診療所および病院歯科といった歯科医療機関（臨床実習施設と呼称される）であり、他は保健や福祉、保育などの活動が行われている施設（臨地実習施設と呼称される）である。なお、両種施設における実習時間の配分については、２/３以上は臨床実習施設で行われることとなっている。実際の指導は各施設の公認された指導教員・実習指導者により行われる。実習方法は症例や学生の能力などにより異なるが、次のように区分され、適宜に応用される。即ち、ａ.指導者の直接指導のもとに実習生が主体となって行う“自験”、ｂ.指導者の施術等を介補する“補助”および　ｃ.“見学”である。なお、実習期間中、当科教員が定期的に各施設を巡回し、指導者と意見・情報の交換を行い、もって実習を側面的に支援するシステムを採用している。
８．授業の目標	本授業では医療、保健、福祉等が行われている実践の場において、これまでの講義や基礎実習で修得してきた全ての学科目に関する知識と技能が、互いにつながりのある一体化されたものとなるよう総合的に学習することを目標とする。あわせて社会人としてのマナー、医療人としての倫理とあり方など多くの事柄を少しづつ着実に学びとっていくことも同様に目標とするところである。 なお、具体的な到達目標としては卒業直後において、歯科衛生士として人物的にふさわしく、かつ専門職を基本的に実践できる基礎的能力を体得していることとする。授業は上記を踏まえ、９ヵ月間にわたって継続して行われるが、カリキュラム上は２年次後期３ヵ月は臨地実習Ⅰとして、また３年次前期の６ヵ月間は臨地実習Ⅱとして区分して実施されることとしている。
９．成績評価	評価は以下に示す項目の成績を所定の基準によって配分し、それらの総合点をもって示す。即ち、対象項目は、１）実習課題の達成度（ａ.症例修了数、ｂ.実習記録作成点）、２）実習施設の主・副指導者による評価、３）当歯科衛生士科実施課題についての成績（Ａ．総合筆記試験、Ｂ．口頭試問、Ｃ．症例報告会発表成績）とする。
１０．受講上の注意	臨地実習の意義はきわめて大きく、また深い。一方、そこにおいては実習生に求められている要素も多様であり、また数多い。そこで、目標が円滑に、かつ充分に達成されるよう、順守すべき諸注意点を“臨地実習の心得”として別刷の“臨地実習記録ノート”中に示した。それらの骨子は１．基本的心得、２．服装、身だしなみ、３．実習態度（Ａ．対話・応対に関する事柄、Ｂ．技能学習に関する事柄）より成っている。諸君には折にふれ反復精読のうえ、実習の場に臨むよう希望するところである。
１１．教科書	現用の各科目教科の教科書等：　医歯薬出版
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	臨床実習 HAND Book、臨地実習 HAND Book、監著：真木吉信ほか、クインテッセンス出版

１４．講義スケジュール

月	単　　元	概　　要
４月 ５月 ６月 ７月 ８月 ９月	１．臨床実習 １）各種歯科治療系における 診査、診断、治療計画、フォームドコンセント、治療・処置法、メインテナンス	Ⅰ．実習体制 実習は別に定める日程表に従って行われるが、各実習期間中は、定められた“臨床実習施設”に帰属し、その間、“臨地実習施設”へ定められた日程で出向き実習する。 Ⅱ．実習内容 １．臨床実習施設における実習 保存、補綴、口腔外科ほか各種歯科治療系における内容を学習する。 学習事項の詳細は別刷“臨地実習記録ノート”に示すところである。 学習に際しては先ず、患者をライフステージ別にとらえつつ全人的に理解することに努める。

	２）歯科材料の取り扱い ３）業務記録 ４）安全管理 ２．臨地実習 １） 保育活動における口腔衛生指導 ２） 障害児の歯科治療と口腔ケア ３） 高齢者の特性の理解と口腔ケア	次いで診査、診断を経て病態を把握し、治療計画の立案に至る過程を学習する。 実際の治療や処置およびメインテナンスにおいては、インフォームドコンセントの意義を学び、 必要な知識および臨床技法を自験あるいは補助、見学を通じて習得する。 また、この間に歯科材料の取り扱い、業務記録法、院内感染予防を含めた安全管理など、 に関する知識および技能を習得する。 ２．臨地実習施設における実習 （１）幼稚園においては、保育活動に参加することによって先ず園児の日常生活について理解する。また発達段階に応じたコミュニケーションをとることにより対象者にとって必要な援助のあり方を学ぶ。これを踏まえて、口腔衛生指導が適切に実践できるよう基礎的学力、技能の学習に努める。 （２）本県総合療育センターにおいては障害児の歯科治療における共同動作や口腔ケアに必要な知識や技能を学び、併せて本人およびその家族への対応能力等を養う。 （３）通所介護施設において高齢者の特性を理解するとともに対応法を学び、それを基に口腔機能の向上とQOLの向上に必要な口腔ケアの技能の修得に努める。

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	総合歯科学　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・２部
４．対象学年・対象学期	第３学年　後期
５．単位数	６単位
６．担当講師	高津寿夫、正田光典、柴田佐智子、今泉正子、下山田真弓、佐久間真紗美、松本美香、高野奈美、千葉光紗、大根光朝、浜田義信、宮澤忠蔵、宗形芳英、大沼英子、岩田教一
７．授業形式	講義形式とする。各講師が提供するプリントや現用教科書などを教材として使用する。講義には板書のほか、適宜に映像機器を用いて理解の向上を図る。
８．授業の目標	本科目は９ヵ月にわたる臨地実習が終了した時点で開始される。この間の実践の場での体験学習を通じ、学生達にはそれまで縦断的に学んできた事柄を相互に結びつけて理解するという基礎がある程度できたものと考えられる。そこで本科目では、この機に学習内容を総合化し、より確実な知識にさせていくことを目標とするものである。あわせて、歯科事象を総合的知識をもって、多面的に検討できるなど、問題解決能力の素地育成を指向させるものとする。
９．成績評価	期末試験の結果で評価する。
１０．受講上の注意	授業中に板書された説明や追加事項は講義ノートや配布プリンの余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用出来るように努める。
１１．教科書	現用の各科目教科書を適宜使用することとする。 歯科衛生学シリーズ　医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．年間講義スケジュール

月	単　　元	概要
9月 10月 11月 12月 １月	基礎分野 専門基礎分野 専門分野 選択必修分野	授業分野における各種教科領域につき、極力広範囲からテーマを互いに有機的に関連づけながら選定し、提示する。例えば各種の疾患や障害については両者の因果関係や、それぞれの病態と分類および診断と治療に関し、学理と実際を一口腔単位あるいは一個体単位で理解できるよう学習させる。また、それらを踏まえて歯科衛生業務を円滑に遂行できるよう関係知識の拡大と総合化に努めさせる。あわせて口腔健康のプロフェッショナルを目指す立場から、多様な問題について学習させ、問題解決能力の向上に努めさせる。

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	審美歯科学　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等22年勤務）
２．科目分類	選択必修分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第3学年・前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	①正田 光典、②柴田 佐智子
７．授業形式	・教室でのプロジェクター使用の講義（正田） ・実験室での講義、演習、基礎実習および基礎実習室での相互実習（柴田）
８．授業の目標	・審美の概念を学ぶとともに、審美修復に必要な知識を身に付ける。 ・継続した口腔ケアを通して、さまざまな口腔状況・全身疾患を持った患者さんへのヘルスケアだけでなく、プライマリケア領域でおこなう歯科専門知識を取得する。 ・審美歯科の基礎を学び、種々の審美やホワイトニングの方法をアドバイスできる力を身につける。
９．成績評価	学期末に行う期末試験により評価とする。
１０．受講上の注意	・講義中のノート、配布資料は学生自身が工夫し、整理整頓して保管すること。 ・実習中は身支度を整え、必要器材を忘れないこと。 ・専門的技術習得のために基礎知識の復習を怠らないこと。 ・実習室においては歯科診療室と仮定し臨むこと。
１１．教科書	「新　ＰＭＴＣ］　医歯薬出版株式会社 「歯科衛生士ベーシックスタンダードホワイトング」医歯薬出版株式会社
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1		①最新審美補綴総論
2		①最新審美補綴の現状（各種インプラント治療）
3	第１・２章	②PMTCについて（総論）
4	第１・２・３章	②ホワイトニング（概要、コンサルテーション、模型調整、ベースラインシェード確認）総論
5		①最新審美補綴総論
6	第２章	②ホームホワイトニングについて、注意事項、カスタムトレー作製方法
7		②ホームホワイトニングカスタムトレー作製
8		①最新審美補綴の現状（各種インプラント治療）
9		②ホームホワイトニングカスタムトレー作製、トレーの使用方法 ②PMTC：エバチップ・プロフィンハンドピース使用方法
10	第４章	②PMTCの実際
11		②PMTCの実際
12		①最新審美補綴の現状（各種インプラント治療）
13	第２章	②オフィスホワイトニング
14		②オフィスホワイトニング

15		①最新審美補綴の現状（CAD/CAMシステム）
16		①最新審美補綴の現状（CAD/CAMシステム）
17		前期　期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科東洋医学
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第３学年・後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	手塚　清恵
７．授業形式	座学（プロジェクター、板書あるいはプリント）
８．授業の目標	東洋医学の考え方や診察方法・治療法を学習することによって、医療従事者として幅広い視野を持つとともに、歯科医療との共通することや歯科医療に活用できることを見つけていく場として欲しい。 なお、本授業では、卒業後、歯科衛生士として勤務していく中で自分自身の不調をどのようにとらえ、対処していくのかについて考える場としたい。
９．成績評価	授業態度・出席状況、レポート試験により評価する。
１０．受講上の注意	よく考え、自分なりに理解できるよう努力をすること。
１１．教科書	なし
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1		１．東洋医学とは？
2		２．気・血・津液について、病気の原因について
3		３．五臓の働きについて、診察法について
4		４．ツボ（経穴）ってなに？
5		５．はりを体験しよう
6		６．お灸を体験しよう
7		７．からだを動かそう
8		８．期末試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	臨床検査学演習　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　前期・後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	高津寿夫、下山田真弓、佐久間真紗美、　松本美香、　高野奈美，　千葉光紗
７．授業形式	演習形式
８．授業の目標	歯科臨床の現場で不可欠な臨床検査を中心に学習し，併せて実習を行い実際の生体の反応を観察することでより理解を深める．
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	講義，実習を行うため，白衣など実習の準備を行うこと．さらに実習毎に必要事項を必ず実習帳に記載すること．
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　臨床検査（第1版）著者：野村　武史ほか　医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．年間講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	1章	1章　臨床検査と歯科衛生士の役割 ①臨床検査の必要性、②臨床検査の目的、③臨床検査の種類、④検査結果の評価、⑤検査結果の解釈（読み取り方）と注意点、⑥臨床検査における注意事項
2	11章	11章　画像検査 ①エックス線検査、②CT検査、③MRI検査、④核医学検査、⑤超音波検査、⑥骨量検査、⑦内視鏡検査
3	2章	2章　生理機能検査 ①バイタルサインに関わる基本の検査、１．バイタルサインとモニタリングの意味、２．体温、３．脈拍、４．血圧、５．呼吸数、６．歯科治療時の偶発症とバイタルサイン　③肺機能検査―３．パルスオキシメータ
4	2章	2章　生理機能系検査につき示説と実習 １.体温検査、２.脈拍検査、３.血圧検査、４.経皮的動脈血酸素飽和度検査
5	９章、12章	9章　免疫・血清学的検査 ②アレルギー検査、１．アレルギーとは、２．アレルギー検査－２）遅延型アレルギーの検査、③アレルギー検査に関わる疾患－４．金属アレルギー 12章　口腔領域の臨床検査 ②口臭の検査、③味覚の検査
6	2章	2章　生理機能検査 ②心機能検査（講義）　・示説と実習；心電図について ・筆記試験
7	付章２	付章２　主な口腔領域の検査項目 講義は主として以下の事項について行う。①歯の検査、１．透照診、２．電気的診査法、３．う蝕検知液による感染歯質の識別、４．根管内細菌培養検査、②歯周領域の検査、１．歯間離開度の検査、２．咬合診査
8	付章２	上記、歯および歯周領域の検査法につき示説と実習の実施 ・筆記試験

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	臨床検査学演習　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年　前期・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	高津寿夫、佐久間真紗美、柴田佐智子、今泉正子、下山田真弓、松本美香、高野奈美、千葉光紗
７．授業形式	演習形式
８．授業の目標	歯科臨床の現場で不可欠な臨床検査を中心に学習し，併せて実習を行い実際の生体の反応を観察することでより理解を深める．
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	講義，実習を行うため，白衣など実習の準備を行うこと．さらに実習毎に提出のレポートについては必要事項を必ず記載すること．
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　臨床検査　第１版　野村　武史ほか　　医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	3章	3章　血液学的検査　①血液学的検査の基本　１．血液の概要、２．採血、３．血液学的検査とは　②赤血球の検査（貧血の検査）　１．赤血球とヘモグロビン、２．赤血球に関連する検査、３．赤血球の検査に関わる疾患（貧血）③白血球の検査　１．白血球とは、２．白血球に関連する検査、３．白血球の検査に関わる疾患
2	3章、9章	④出血・線溶系検査　１．出血と凝固（止血）のメカニズム、２．血小板の検査、３．凝固因子の検査、４、線溶系因子の検査、５．出血ー凝固系検査に関わる疾患 9章　免疫・血清学的検査　⑤輸血に関する検査　１．ABO式血液型の検査、２．Rh血液型、３．不規則抗体、４、交差適合試験、５．HLA
3	12章	12章　口腔領域の臨床検査 う蝕リスクの検査について説明し、以下の検査を順次、実習する。 １）CAT21buf、２）RDテスト、３）Dentocult SM・LB、４）Dentocult-Strip（示説）
4	12章	う蝕リスクの検査として、５）オーラルグルコースクリアランステストの実習。　上記う蝕リスクの検査結果の整理および記録
5	12章	12章、第6項目　摂食嚥下関連の検査 ⑥摂食嚥下障害のスクリーニングテスト。１．RSST,２．MWST、３．FT、４．Cough test。②摂食嚥下障害の検査法。１．VF検査法、２．VE検査法 また、スクリーニングテストの一部につき実習を行う。なお、この授業内容について筆記試験を行う。
6	3章、9章	血液に関する以下の検査につき、概説、示説および実習を行う。１．血液型判定試験、１）ABO式おもて試験、２）Rh式試験。２．出血性素因検査、１）出血時間（Duke法）、２）毛細血管抵抗性試験（加藤ー上林法）
7	12章	１．う蝕リスク検査の結果判定；Dentocult SM・LB（48時間後） ２．口腔検査。相互実習方式で歯の硬組織疾患と処置内容（DMF歯率）および口腔清掃状態（PCR%）を検査する。
8	4章	１．口腔診査を継続して実施する。 ２．3章、9章および12章の授業内容に関する筆記試験を実施する。

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科医学演習Ⅰ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等22年勤務）
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　前期（・後期）
５．単位数	１単位
６．担当講師	大根光朝 、浜田義信 、宗形芳英 、大沼英子、岩田教一、柴田佐智子
７．授業形式	基本的には教科書に従って講義を行い，内容的に不足と思われる事象については，配布資料で補う。同時に「重要項目」を作成し，講義の進行状況に従って，学生にまとめさせる。
８．授業の目標	免疫学と衛生学・公衆衛生学、解剖学・生理学・自然科学を基本に予防歯科学の基礎について学習する。 基本的な内容は全員が理解把握できるようにし，詳細な事項については，自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。
９．成績評価	原則として，筆記試験により評価する。併せて重要項目のまとめ,授業態度なども評価の対象とする事がある。
１０．受講上の注意	・講義中のノート，配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。 ・出欠席、授業に関わるレポート、小テスト、授業態度、他全てが成績評価に繋がることから、授業には真剣に取り組むこと。
１１．教科書	各教本および配布資料
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	感染症等 他	感染症の成立、感染症の種類と現状、感染症対策の概略（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、検疫法、予防接種）について把握する。 口腔の代表的感染症であるう蝕症、その継発疾患である根尖性歯周炎、および辺縁性歯周炎の発症を免疫の観点から講義する。最終目標は免疫不全とそれらの発症についてである。
2		
3		
4		
5	食品と健康等 他	食生活が生活習慣病の大きな要因となり，食品中に混入する微生物や化学物質が食中毒などの健康障害の原因になること、さらに食中毒の予防対策についても把握する。また，健康増進、生活習慣病を予防するためには、どのような栄養をどれだけ摂取すれば良いのか、国民の栄養摂取状況と問題点などを把握する。
6		
7		
8		
9	後期	
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科医学演習Ⅰ　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　前期・後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	高津寿夫、正田光典、柴田佐智子、今泉正子、浜田義信、岩田教一
７．授業形式	演習形式
８．授業の目標	これまでに履修した専門基礎分野の各科目の枠を越えて複合的な学習を行い、学科目を横断的に理解し、以後の専門分野の学科目の学習に連続性を持たせることを目的とする。
９．成績評価	原則として、筆記試験により評価する。併せて重要項目のまとめ、授業態度なども評価の対象とする事がある。
１０．受講上の注意	授業では積極的に修学する姿勢で臨み、レポートについても参考図書などを徹底的に活用してまとめあげる。さらに授業に備えての予習、復習を必ず行う。
１１．教科書	口腔解剖学、歯科薬理学、保健生態学、歯科臨床概論、歯科予防処置、歯科診療補助などの現用教科書。歯科衛生学シリーズ、医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．年間講義スケジュール

月	単　　元	概　　要
1月 2月	歯と口腔の保健 歯科と薬 歯や口腔の構造機能 口腔と病気 基礎と臨床	生活環境と歯・口腔の健康と予防について学習する。 口腔の正常構造と機能について学習し、併せてそれらにつき臨床的見地からも学習する。 口腔に発生する疾患を基礎歯科医学および臨床歯科医学の両面から横断的に学習する。 歯科基礎医学と歯科衛生との接点について学習する。

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科医学演習Ⅱ　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等17年勤務）
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年　前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	高津寿夫、正田光典、大根光朝、宮澤忠蔵、大沼英子、下山田真弓
７．授業形式	演習形式とするが、講義では教科書に従って行い、内容的に不足と思われる事柄については、配布資料で補う。同時に「重要項目」を作成し、講義の進行状況に従って、学生にまとめさせる。
８．授業の目標	ライフステージを通じ、歯・口腔の健康管理に必要な事柄を基礎的・臨床的見地から多角的に検討する。基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。
９．成績評価	原則として，筆記試験により評価する。併せて重要項目のまとめ,授業態度なども評価の対象とする事がある。
１０．受講上の注意	講義中のノート、配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
１１．教科書	口腔衛生学、歯科保健指導論、う蝕学、小児歯科学、歯科補綴学、口腔外科学、歯科矯正学等の現用教科書．歯科衛生学シリーズ（医歯薬出版）
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．年間講義スケジュール

月	単元	概　　要
8月18日 8月26日 9月5日 9月11日	歯・口腔の健康と疾患・障害：ライフステージごとの予防、治療、リハビリと口腔保健管理	ライフステージは妊産婦期、乳幼児期、学齢期、思春期、成人期、老年期に大別される。これら人の生涯を通じ、それぞれの時期における口腔内の健康・障害も変化する。それぞれの時期にどのような対応と保健管理が必要となるか把握する。基礎的および臨床的見地から検討する。

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科臨床演習Ⅰ　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年　前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	柴田佐智子・今泉正子・下山田真弓・高野奈美・千葉光紗 松本美香・佐久間真紗美
７．授業形式	講義・説明・演習
８．授業の目標	1学年前期で履修した歯科診療補助、予防処置実習の内容を確認すると共に総合的能力を身に付ける
９．成績評価	平常点(出席、実習態度）と各授業における検印表を基にした技術と学期末に行われる実技試験を総合的に勘案し評価とする。
１０．受講上の注意	・実習時は身支度をきちんと整え、必要器材を忘れないこと。 ・室内や物品の整理整頓に努め使用後は各自が責任を持って清掃を行う。 ・配布資料などは整理し保管・管理をし、適宜活用できるようにする。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」第2版 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
１２．副読本	特になし
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	歯科予防処置実習	部位別操作②13番歯～23番歯
2	歯科予防処置実習	部位別操作③44番歯～47番歯
3	歯科予防処置実習	部位別操作④14番歯～18番歯
4	歯科予防処置実習	部位別操作⑤34番歯～37番歯
5	歯科予防処置実習	部位別操作⑥24番歯～27番歯
6	歯科予防処置実習	実技試験告知、練習
7	歯科予防処置実習	実技試験
8	歯科予防処置実習	実技試験
9	歯科診療補助実習	バキュームテクニック（相互）
10	歯科診療補助実習	バキュームテクニック（相互）
11	歯科診療補助実習	スリーウェイシリンジとフォーハンドテクニック
12	歯科診療補助実習	スリーウェイシリンジとフォーハンドテクニック
13	歯科診療補助実習	患者誘導からバキュームテクニックまで、実技試験・説明・練習
14	歯科診療補助実習	患者誘導からバキュームテクニックまで、実技試験・説明・練習
15	歯科診療補助実習	実技試験
16	歯科診療補助実習	実技試験

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科臨床演習　Ⅱ　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	柴田佐智子、今泉正子、下山田真弓、高野奈美、千葉光紗・佐久間真紗美、松本美香
７．授業形式	講義・説明・演習
８．授業の目標	1学年後期で履修した歯科診療補助・歯科予防処置実習内容を確認すると共に総合的能力を身につける。
９．成績評価	平常点（出席・実習態度）と各授業における検印表を基にした技術確認と学期末に行われる実習試験を総合的に勘案して評価とする。
１０．受講上の注意	教科書を持参
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」・「歯科材料」・「歯科器械」 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法　第2版」
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	歯科診療補助実習Ⅱ	印象採得　相互習熟実習
2	歯科診療補助実習Ⅱ	
3	歯科診療補助実習Ⅱ	
4	歯科診療補助実習Ⅱ	
5	歯科診療補助実習Ⅱ	実技試験練習
6	歯科診療補助実習Ⅱ	
7	歯科診療補助実習Ⅱ	実技試験
8	歯科診療補助実習Ⅱ	
9	歯科予防処置実習Ⅱ	フッ化物歯面塗布法（相互実習） 問診、説明、歯面清掃、フッ化物塗布、患者指導
10	歯科予防処置実習Ⅱ	
11	歯科予防処置実習Ⅱ	歯周組織検査(相互実習) 問診、説明、動揺度検査、プロービング操作、現症説明
12	歯科予防処置実習Ⅱ	
13	歯科予防処置実習Ⅱ	実技試験練習
14	歯科予防処置実習Ⅱ	
15	歯科予防処置実習Ⅱ	実技試験
16	歯科予防処置実習Ⅱ	

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科臨床演習Ⅲ　（歯科予防処置実習・歯科診療補助実習　系） ※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　1部　2部
４．対象学年・対象学期	2学年　　前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	柴田佐智子・今泉正子・佐久間真紗美・下山田真弓　・松本美香・千葉光紗・高野奈美
７．授業形式	講義及び実習室での基礎実習、　相互実習
８．授業の目標	・歯科診療の基本である歯科診療室に関する基礎知識をはじめ、感染予防対策および共同動作の基本と方法などについて必要な知識と技術を習得できる。 ・歯科主要材料の取り扱いを習得する。 ・歯・口腔の状態の把握及び歯科予防処置の基本的技術を修得する。
９．成績評価	実技試験成績を基本とするが実習態度・課題の提出状況を総合的に評価する事もある。 検印表等がある場合は、技術確認も統合的に勘案していく。
１０．受講上の注意	・実習時は身支度を整え、必要な器材や教科書・資料を忘れない事。 ・室内や物品の整理整頓に努め使用後は各自が責任をもって返却を行し、清掃を行う。 ・配布資料は順次整理をして保管をし、適宜活用できるようにする。
１１．教科書	歯科衛生学シリーズ　「歯科診療補助論」 歯科衛生学シリーズ　「歯科材料」 歯科衛生学シリーズ　「歯科機器」 歯科衛生学シリーズ　「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 歯科衛生学シリーズ　「歯周病学」
１２．副読本	特になし
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	5章 歯科診療で扱う歯科材料	予防処置実習Ⅱ　：　キュレット検印（マネキン上）
2	編　歯科予防処置・歯科保健指導各論 ３章歯科衛生士介入の歯科予防処置	予防処置実習Ⅱ　：　実技試験周知
3	編　歯科予防処置・歯科保健指導各論 ３章歯科衛生士介入の歯科予防処置	診療補助実習Ⅲ　：　実技試験
4		
5	5章 歯科診療で扱う歯科材料	診療補助実習Ⅲ　：　車いす、抑制、介護法　／　暫間被覆冠作成
6		
7	Ⅲ編　歯科予防処置・歯科保健指導各論 ３章歯科衛生士介入の為の歯科予防処置	予防処置実習Ⅱ　：　実技試験
8		
9		予防処置実習Ⅱ　：　超音波スケーラー　基礎実習
10		
11		予防処置実習Ⅱ　：　超音波スケーラー　相互実習①
12		
13		予防処置実習Ⅱ　：　超音波スケーラー　相互実習②
14		
15		予防処置実習Ⅱ　：　再評価①
16		

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	統合演習 Ⅰ　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　前期（・後期）
５．単位数	１単位
６．担当講師	大根 光朝、浜田 義信、大沼 英子、柴田 佐智子、今泉 正子、岩田 教一
７．授業形式	演習形式
８．授業の目標	これまでに履修した専門基礎分野の各科目に臨床系専門分野の科目を加えて複合的な学習を行い、学科目の枠を越えて横断的に理解し、以後の基礎系および臨床系学科目の学習に連続性を持たせることを目的とする。
９．成績評価	演習科目の特質上、授業への積極的な参加、レポートの評価、そして授業中に行う討論および適宜行う筆記試験を総合的に勘案して評点を付与する。
１０．受講上の注意	授業では積極的に修学する姿勢で臨み、レポートについても参考図書などを徹底的に活用してまとめあげる。さらに授業に備えての予習、復習を必ず行う。出欠席、授業に関わるレポート、小テスト、授業態度、他全てが成績評価に繋がることから、授業には真剣に取り組むこと。
１１．教科書	各教本および配布資料
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1 2 3 4 5 6 7 8	１．生物とは何か ２．人体の構造と機能 ３．歯、口腔の構造と機能　　４．口腔と微生物 ５．健康、環境、食品と疾患 ６．歯科衛生士と業務	生命科学のさまざまな分野へと知識を発展させるための基礎を広範に学習する。　人体の構造と機能を有機的に結びつけながら総合的に学習する。あわせて臨床的視点からも学習する。 歯と口腔の構造と機能を人体全体の一部として位置づけし、多視的に学習する。あわせて臨床的観点からも学習する。 口腔常在菌について総合的に学習し、あわせて病原性微生物に起因する口腔疾患について学習する。 日常生活に関連する環境問題や食品問題およびそれらに起因する疾患について学習しさらに予防法を学習する。 歯科衛生士の主要業務に関する法的背景や生物学的および歯科臨床工学的学理と応用の実際を広範に学習する。
9	後期	
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	統合演習 Ⅰ　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	選択必修分野（必修）
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　（前期）・後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	柴田佐智子、今泉正子、佐久間真紗美、下山田真弓、松本美香、高野奈美、千葉光紗、浜田義信、宗形芳英
７．授業形式	演習形式
８．授業の目標	これまでに履修した専門基礎分野の各科目に臨床系専門分野の科目を加えて複合的な学習を行い、学科目の枠を越えて横断的に理解し、以後の基礎系および臨床系学科目の学習に連続性を持たせることを目的とする。
９．成績評価	演習科目の特質上、授業への積極的な参加、レポートの評価、そして授業中に行う討論および適宜行う筆記試験を総合的に勘案して評点を付与する。
１０．受講上の注意	授業では積極的に修学する姿勢で臨み、レポートについても参考図書などを徹底的に活用してまとめあげる。さらに授業に備えての予習、復習を必ず行う。
１１．教科書	解剖学、口腔解剖学、生理学・口腔生理学、歯科予防処置、歯科診療補助、の現用教科書 （歯科衛生シリーズ、医歯薬出版）
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

月	単　元	概　要
2月	１．人体の構造と機能 ２．歯、口腔の構造と機能 ３．病変と機能障害 ４．薬剤の作用と疾病の回復 ５．歯科衛生士と業務	１．人体の構造と機能を有機的に結びつけながら総合的に学習する。あわせて臨床的視点からも学習する。 ２．歯と口腔の構造と機能を人体全体の一部として位置づけし、多視的に学習する。あわせて臨床的観点からも学習する。 ３．病気や先天性異常に伴う病的な機能を学び、あわせて口腔領域のそれらについての病態を学習する。 ４．薬剤の生体に及ぼす作用の基礎を学び、口腔領域に応用時の影響・効果を学習する。 ５．歯科衛生士の主要業務に関する生物学的および歯科臨床工学的学理と応用の実際を広範に学習する。

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	統合演習Ⅱ
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年　　前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	園田 正人、遠藤 克哉、歯科衛生士会、下山田真弓
７．授業形式	演習形式とするが、講義では配布プリントや黒板を使って行う。なお適宜映像機器を用い、理解の向上を図る。
８．授業の目標	近年、我が国においては世界に類を見ない速さで人口の高齢化が進んでいる。これに伴い医療面においては多様で、より包括的な対応が求められている。その結果、歯科医療においても他職種と連携して協働を行う機会が多くなっている。一方、人々の健康を危機的に脅かすものとして、まだ記憶に深在する東日本大震災に代表される“大規模災害”が挙げられる。健康危機発生時の支援、管理の重要性が歯科界を含め喚起され、その整備が急がれている。本科目では、上記のような社会事象が取り巻く歯科界に注目し、斯界で活躍されている外部講師の方々に実際の現場についての講義をお願いすることとした。もって学生には後期後半からの臨地実習に向け、幅広い知識の涵養に努めさせることを目標とするところである。
９．成績評価	筆記試験や課題に対するレポート内容での評価を基本とする。併せて受講態度や積極性なども評価の対象とする事がある。
１０．受講上の注意	講義中のノートや配布資料は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
１１．教科書	指示があれば準備をする
１２．副読本	特になし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．年間講義スケジュール

回数	単　元	概　　要
1	１．訪問歯科	１．訪問歯科 超高齢社会を迎えた我が国においては、さまざまな理由により通院できない患者さんは多い。対応内容は歯科治療から口腔ケアに至るまで広範囲にわたっている。本テーマにおいては豊富な経験をおもちの講師から、その概要をはじめ多様な現場の実際活動や留意事項等について講義を受け、当該分野に関する知識と理解を深めたい。
2		
3	２．摂食嚥下障害	２．摂食嚥下障害への対応について 嚥下機能障害が原因で誤嚥性肺炎となる頻度は加齢とともに急増する。これを主因とする肺炎による死亡率は2011年を境として第3位に浮上し、その対策が急務となっている。本テーマについては主として介護施設において、多くの利用者が抱える多様な摂食嚥下障害に取り組んでこられた講師から、その実態とリハビリテーションの実際などの初歩について講義を受ける。もって臨地実習や3年次の高齢者・障害者歯科学の理解につなげたい。
4		
5		
6		
7	３．災害支援活動	３．災害支援活動について 福島県では東日本震災に見舞われた。歯科衛生士は震災直後から1次避難所における救急医療支援や口腔ケアなどの支援活動ににも携わってきた。また近隣他地域での支援活動や平成7年時の阪神・淡路大震災の経験を踏まえ、日本歯科衛生士会は平成25年3月に、“災害支援活動歯科衛生士実践マニュアル”を作成した。本講義では当時の支援活動や実際をお話しいただくとともに、被災後のフェーズの推移に応じた支援のあり方や連携の取り方などについてお聞きし、本テーマに関する知識を深める。
8		

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	歯科総合演習　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・２部
４．対象学年・対象学期	第３学年　後期
５．単位数	2単位
６．担当講師	高津寿夫、正田光典、柴田佐智子、今泉正子、佐久間真紗美、下山田真弓、松本美香、高野奈美、千葉光紗、大根光朝、浜田義信、宮澤忠蔵、宗形芳英 、大沼英子、岩田教一
７．授業形式	演習形式とする。即ち、担当講師が基礎歯学や応用歯学の分野から、それぞれの視点にて重要事項についてテーマを設定する。学生はこれにつき調査、学習した内容を発表し、クラス全員で討議する。具体的なテーマを多数提示し、これへの解答、討議を通じて帰納法的に問題点の整理法および対応能力を体得させる。また学生からも、これまでの学習内容に関して疑問点等をテーマとして提示させ討議させる。
８．授業の目標	本科目は３年間の学業を締めくくる最後の授業として集中的に行われるものであり、その意義は極めて大きい。即ち、本科目では、これまでに学んできた基礎歯学および応用歯学における全ての事柄を有機的に整理して総合学習をさせ、これによって卒業直後において歯科衛生士としての専門職を基本的に実践できる基礎的学力を体得するように努めさせることを目標とするものである。
９．成績評価	演習科目の特色上、授業への積極的な参加、レポートの評価、そして授業中に行う討論および適宜行う筆記試験を総合的に勘案して評価を付与する。
１０．受講上の注意	授業には積極的な学習姿勢で臨むこと。報告内容については教科書のみならず関連図書を徹底的に活用し、内容の濃いものにまとめあげる。さらに授業に備えての予習を行い、事後の知識整理に務める。
１１．教科書	現用の各科目教科書を適宜使用することとする。 歯科衛生学シリーズ、医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．年間講義スケジュール

月	単　　元	概　　要
1月 2月	基礎歯学 応用歯学	本科目は、その目標趣旨を踏まえ、先ずは歯科衛生士科教科領域の内容につき、縦断的に満遍なく復習し、基礎歯学ならびに応用歯学に関する基本的知識を確固たるものとする。そのうえで、各教科領域の横断的テーマを課し、それへの対応法を学びつつ知識の拡大を図る。さらに、各種の問題や要素が複雑に交織した応用テーマを課し、その解決法を学ぶこととする。これらの過程を経て、学生には徐々に学力・能力を習得させ、卒後の研修や研究意欲等の向上につなげられるように図るものとする。

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（後期）

１．科目名	研究方法演習　※実務経験のある教員の授業科目（歯科医院等4年勤務）
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第3学年　後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	高津　寿夫、高野　奈美
７．授業形式	演習形式とする。講義ではiPadを用い、また白板を使って行う。実践面ではパソコン等を用い、講義内容の理解のもとに臨地実習での体験症例について論文作成を行うこととする。
８．授業の目標	現学生が将来、臨床の場で遭遇するであろうさまざまな問題に対し、解決への道筋をつけ得るためには、問題点と解決法を「研究」する心と能力を涵養しておくことが必要である。このような観点から本科目では一つの教育手段として実践の場である臨地実習で各自が体験した症例の中から一つを選定し、事例研究としてまとめさせることを目的としている。得られた内容・結果は先ずは口頭で、最終的には事例報告論文として学内および一部の学外関係者に発表される。これには適宜、基礎となる文章作成法やプレゼンテーション法を導入し、学生の能力向上の助成に努める。
９．成績評価	筆記試験の結果に症例報告論文の作成に関する評点等を加味して評価する。
１０．受講上の注意	板書された説明、追加事項は講義ノートや配布プリント等の余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用できるように努める。
１１．教科書	下記の単元に対応し作成したプリント（資料はiPadに収納してある）を使用する。
１２．副読本	無し
１３．推薦参考図書	１．歯科衛生研究の進め方・論文の書き方（第2版）、編著；武井　典子ほか、医歯薬出版　２．レポート・論文の書き方（第6版）、著者；高谷　修、金芳堂

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	研究の意義	１．研究とは何か　２．研究はなぜ必要か　３．歯科衛生業務における研究　１）専門職における研究の重要性、２）歯科衛生業務における研究の意義
2	レポート・論文の書き方	１．文法の基本　１）言葉の単位、２）文の成分・組み立て　　２．レポート・論文を書く基本　１）文節、２）文体、３）文体の統一、４）留意点、５）表記上の約束事、６）文章の長さと段落構成
3	文章の作り方（１）	１．助詞の使い方　２．接続の表し方　３．送りかな・かなづかい、ほか
4	文章の作り方（２）	４．敬語と謙譲語　５．句点、読点の用法　６．間違えやすい表現、ほか
5	論文作成（１）	１．論文作成要領の概説　２．臨地実習での体験例についての症例報告論文の作成（１）、原稿受付
6	論文作成（２）	上記論文の作成（２）、原稿受付、点検・返却、完成原稿受理
7	論文作成（３）	上記論文の作成（３）、原稿受付、点検・返却、完成原稿受理。　講義補遺（１）
8	論文作成（４）	完成原稿受理。　　筆記試験の実施

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	職業教育Ⅰ　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	応用分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年・前期・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	千葉光紗、柴田佐智子、今泉正子、下山田真弓、佐久間真紗美、松本美香、高野奈美、他
７．授業形式	講義および演習
８．授業の目標	新入生研修会を通じて学生間の交流、親睦を深め協調性を学ぶ 様々な講義を受講し歯科衛生士および他職種の資格について知識を深め職業意識を高める ワークショップを通じて学習方法を身につけ、学力向上に繋げる
９．成績評価	各授業における出欠席レポート作成・提出
１０．受講上の注意	事前準備し、出席すること
１１．教科書	
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	4月18日	新入生研修会
2	4月19日	新入生研修会
3	5月24日	チャレンジテスト①（ワークショップ）
4	7月2日	学術論文大会
5	7月9日	外部講習①（ミュゼプラチナム）
6	7月19日	チャレンジテスト②（ワークショップ）
7	11月15日	チャレンジテスト③（ワークショップ）
8	12月9日	外部講習②（ミュゼプラチナム）

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	職業教育Ⅱ　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	応用分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第２学年・前期・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	下山田真弓、柴田佐智子、今泉正子、佐久間真紗美、松本美香、高野奈美、千葉光紗　他
７．授業形式	講義・実習
８．授業の目標	・様々な講義を受講し歯科衛生士及び多種類の資格について知識を深め職業意識を高めると共に、学生間の親睦を深め、協調性を学ぶ。 ・歯科関連職種の実際の活動を体感することにより、歯科医療のイメージをつかみ、将来の自身の歯科衛生士像について考える機会にする。
９．成績評価	・各授業における出席　・レポート作成、提出
１０．受講上の注意	・事前に必要なものを準備すること　・欠席しないこと
１１．教科書	
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	6月21日	チャレンジテスト①
2	7月2日	学術論文大会
3	7月9日	ミュゼプラチナム講義①
4	7月30日	解剖学見学実習
5	9月22日または9月24日	症例報告会
6	9月26日	研修旅行
7	9月27日	
8	12月10日	ミュゼプラチナム講義②

福島医療専門学校

2025年度　講義計画書（前期）

１．科目名	実践教育　※実務経験のある教員の授業科目
２．科目分類	応用分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1・2部
４．対象学年・対象学期	第3学年　前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	高野奈美、柴田佐智子、今泉正子、下山田真弓、佐久間真紗美、松本美香、千葉光紗、他
７．授業形式	講義および演習
８．授業の目標	学術論文大会：歯科衛生士および多種職の資格について知識を深め、職業意識を高める。 症例報告会：臨地実習における実践の場で、経験や体験から得た学びをまとめるとともに、論文作成、発表することで論文作成の基礎を習得する。また、リハーサルに参加することによって論分作成の組み立てを学ぶ。
９．成績評価	各授業における出席、レポート作成、聴講態度など
１０．受講上の注意	事前準備をし、出席をすること（欠席した場合その日の評価は0となる）
１１．教科書	
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	7月2日	学術論文大会
2		
3	9月16日	症例報告会リハーサル（口頭発表と質疑応答）
4	9月17日	
5	9月18日	
6	9月19日	
7	9月22日	症例報告会
8	9月24日	